

第3回左京区わたしたちのふれあいアンケート

区民向け 会員団体・事業所向け

《集計結果》

第3回左京区わたしたちのふれあいアンケート【区民向け】集計結果・・・P1

第3回左京区わたしたちのふれあいアンケート【事業所向け】集計結果・・・P38

社会福祉法人 京都市左京区社会福祉協議会

区民向けアンケート集計結果（配布 2000、回答 799、回答率 40.0%）

① 性別

男性 231 人(28.9%)、女性 558 人(69.8%)、回答したくない 6 人(0.8%)

女性の回答が約 70%。左京区人口に占める割合と同様ではない。

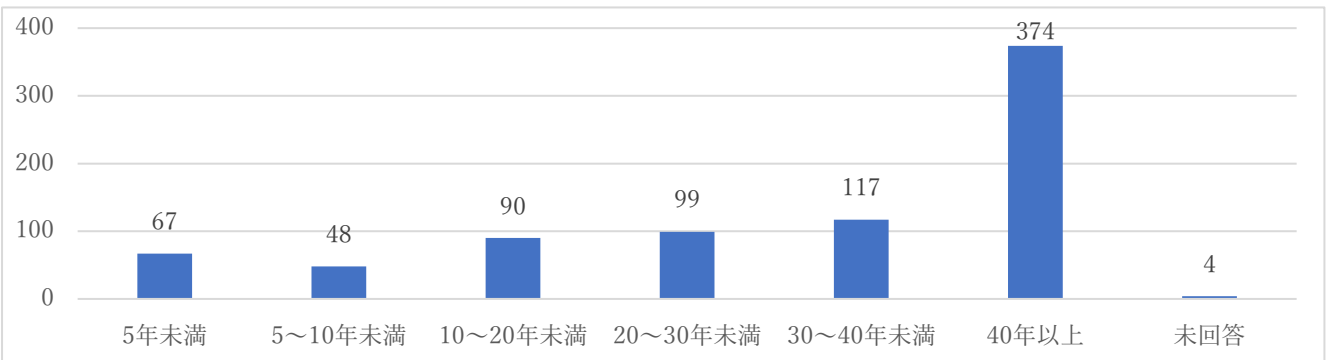
② 年代

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
実数	6	11	35	76	103	166
構成比	0.8%	1.4%	4.4%	9.5%	12.9%	20.8%
	70 歳代	80 歳代	90 歳代以上	未回答	合計	
実数	251	134	12	5	799	
構成比	31.4%	16.8%	1.5%	0.6%	100.0%	

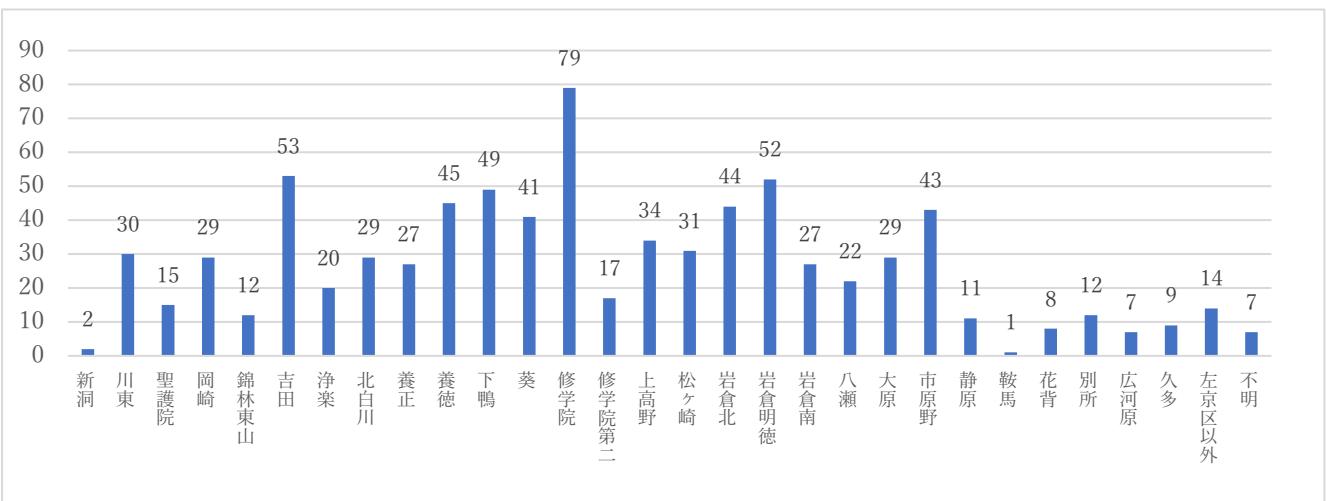
回答者の 70.5%が 60 歳以上。左京区にお住いの高齢者の声を中心と捉える。

③ 居住期間

	5 年未満	5～10 年未満	10～20 年未満	20～30 年未満	30～40 年未満	40 年以上	未回答	合計
実数	67	48	90	99	117	374	4	799
構成比	8.4%	6.0%	11.3%	12.4%	14.6%	46.8%	0.5%	100.0%

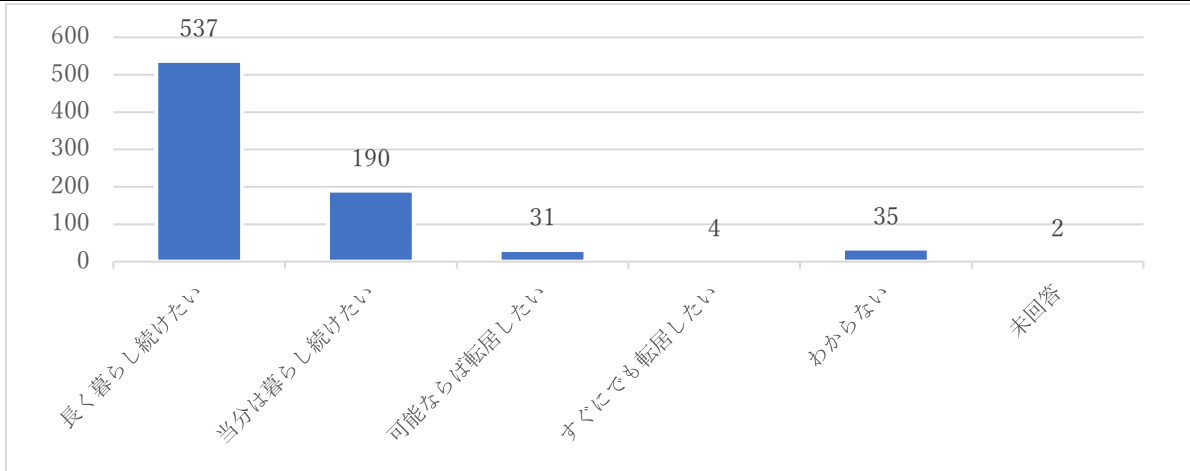


④ 居住学区



⑤ 居住継続希望（今後も住み続けたいか）

	長く暮らし続けたい	当分は暮らし続けたい	可能ならば転居したい	すぐにでも転居したい	わからない	未回答	合計
実数	537	190	31	4	35	2	799
構成比	67.2%	23.8%	3.9%	0.5%	4.4%	0.3%	100.0%

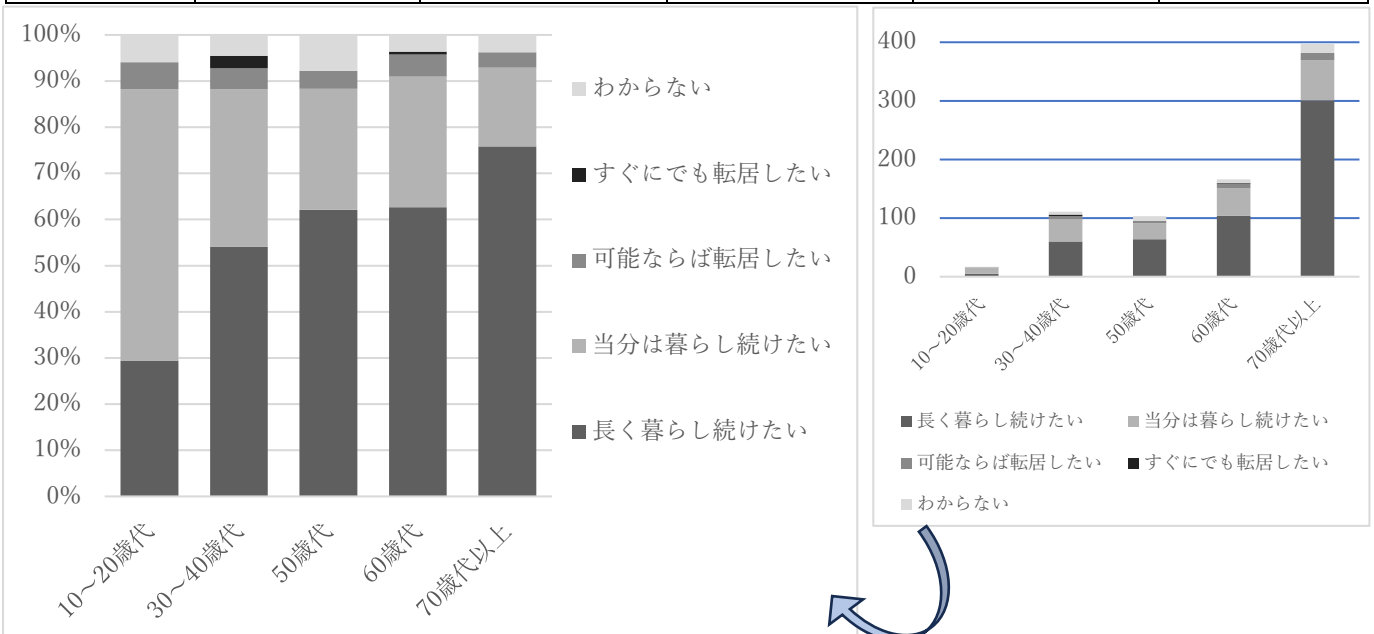


転居希望理由（その他）

- ・ 道徳的ルールを守れない人に残念な思い(川東学区 70代女性)
- ・ 介護や医療、福祉サービスボランティアを利用はしたい。(吉田学区 50代女性)
- ・ 故郷に帰る(松ヶ崎学区 60代男性)
- ・ 高齢になって一人になったら暮らしていけない(市原野学区 60代女性)
- ・ 災害時に不安(市原野学区 70代男性)

クロス集計⑤-1 年代別居住継続希望

	長く暮らし続けたい	当分は暮らし続けたい	可能ならば転居したい	すぐにでも転居したい	わからない
10～20歳代	5	10	1	0	1
30～40歳代	60	38	5	3	5
50歳代	64	27	4	0	8
60歳代	104	47	8	1	6
70歳代以上	301	68	13	0	15

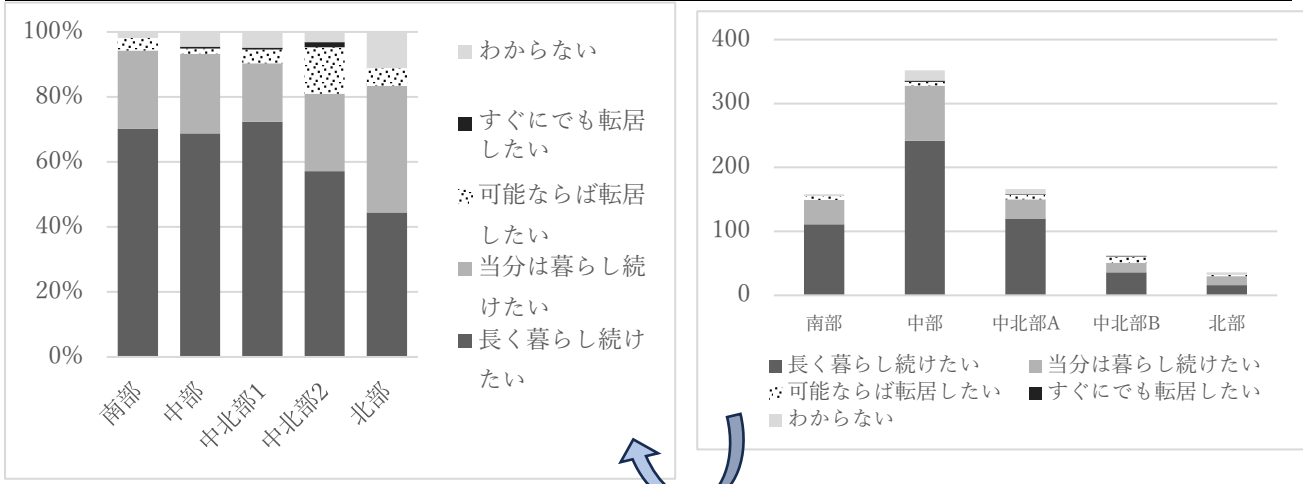


長く住み続けたい 67.2%、当分住み続けたいを含めると 91.0%。

年代別にみると、年代が上がるにつれ、長く暮らし続けたいと回答した割合が上がっており、回答者が 60 歳以上の環境の変化を好まないと思われる高齢者の回答が多いことから、全体的に「長く住み続けたい」が多くなっている。

クロス集計⑤-2 居住地域別居住継続希望

	長く暮らし続けたい	当分は暮らし続けたい	可能ならば転居したい	すぐにでも転居したい	わからない
南部	111	38	6	0	3
中部	242	86	6	2	16
中北部 1	120	30	7	1	8
中北部 2	36	15	9	1	2
北部	16	14	2	0	4

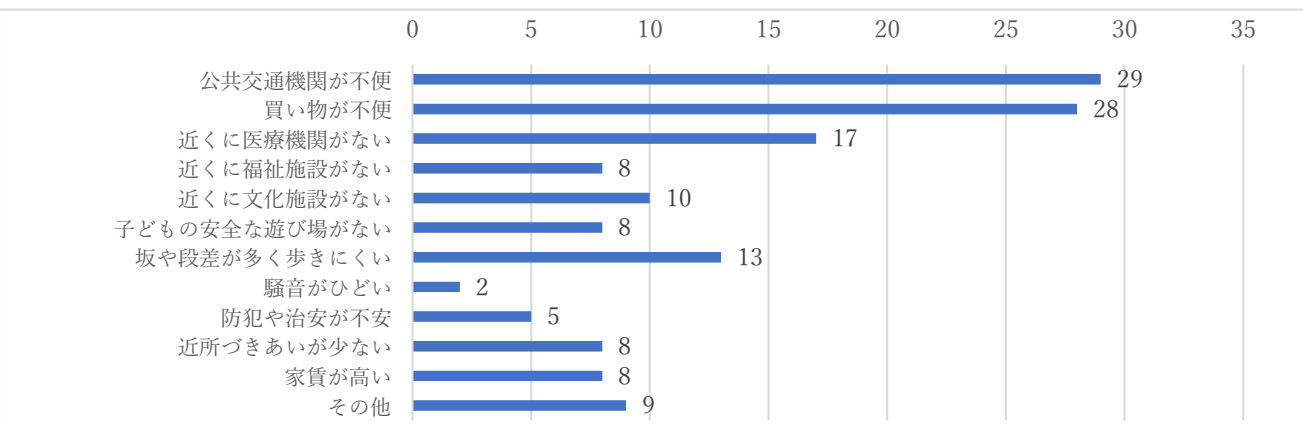


中北部 2、北部と山間地に近づくほど、「長く暮らし続けたい」割合が少ない。

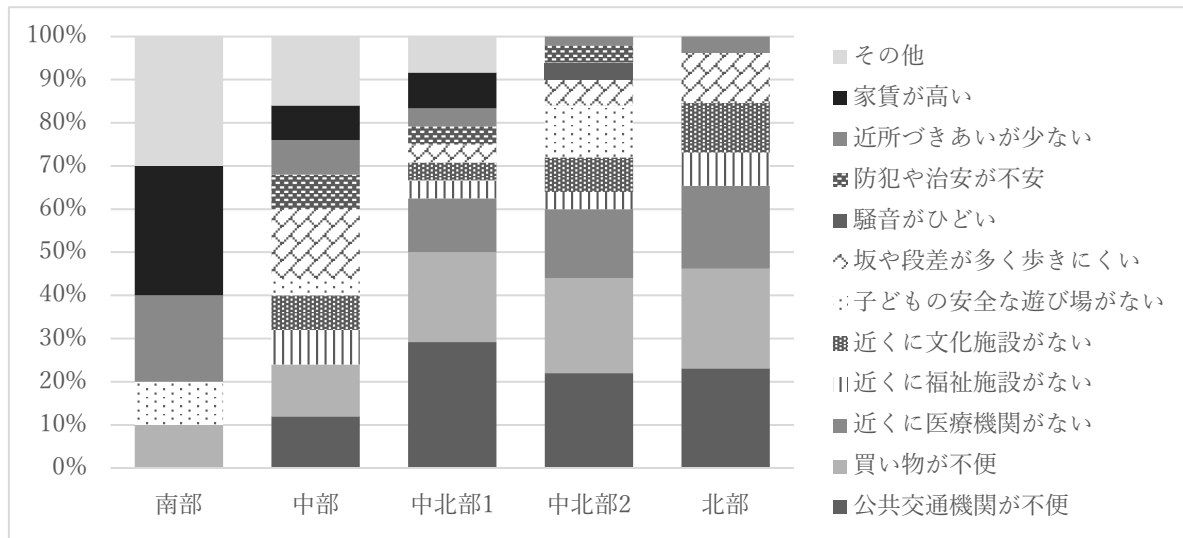
「可能ならば転居したい」と回答した割合が最も多いのは、中北部 2 となっている。

⑥ 転居希望理由 ※⑤で転居したいと答えた 35 名の回答

	公共交通機関が不便	買い物が不便	近くに医療機関がない	近くに福祉施設がない	近くに文化施設がない	子どもの安全な遊び場がない
実数	29	28	17	8	10	8
構成比	82.9%	80.0%	48.6%	22.9%	28.6%	22.9%
	坂や段差が多く歩きにくい	騒音がひどい	防犯や治安が不安	近所づきあいが少ない	家賃が高い	その他
実数	13	2	5	8	8	9
構成比	37.1%	5.7%	14.3%	22.9%	22.9%	25.7%



	公共交通機関が不便	買い物が不便	近くに医療機関がない	近くに福祉施設がない	近くに文化施設がない	子どもの安全な遊び場がない	坂や段差が多く歩きにくい	騒音がひどい	防犯や治安が不安	近所づきあいが少ない	家賃が高い	その他
南部	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	3	3
中部	3	3	0	2	2	1	4	0	2	2	2	4
中北部1	7	5	3	1	1	0	1	0	1	1	2	2
中北部2	11	11	8	2	4	6	3	2	2	1	0	0
北部	6	6	5	2	3	0	3	0	0	1	0	0



- ・中北部、北部は、「公共交通機関が不便」、「買い物が不便」、「近くに医療機関がない」ことが転居理由となっている。
- ・中北部2のみ、「子どもの安全な遊び場がない」が多くなっている。

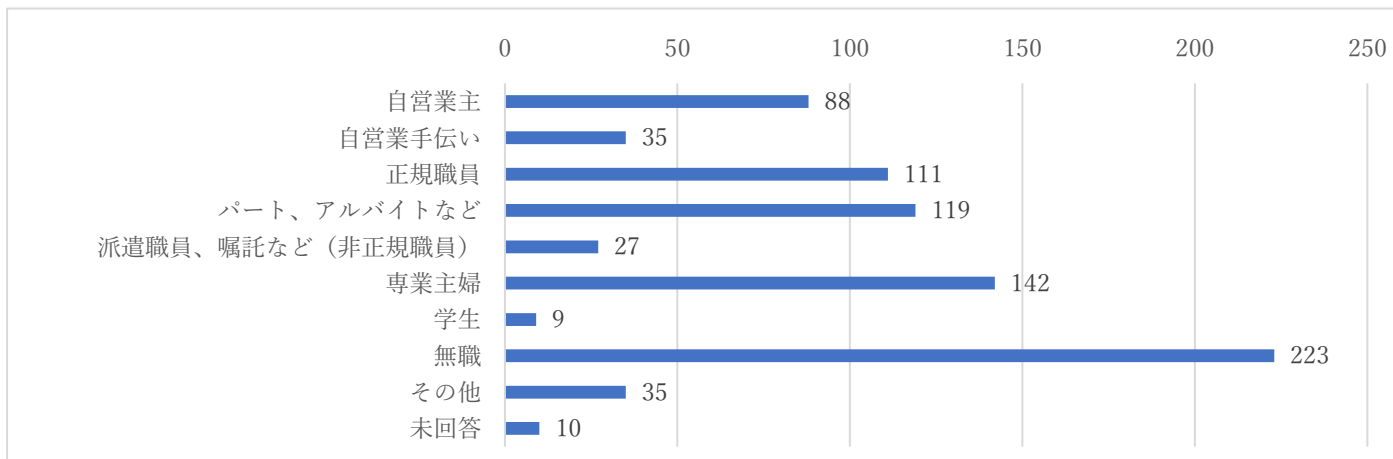
⑦ 家族構成

	一人暮らし	あなた夫婦のみ	あなた夫婦と子ども	あなた夫婦と子ども夫婦	あなた夫婦と子ども夫婦と孫	あなたと子ども	あなたと子ども夫婦
実数	140	243	201	5	20	60	10
構成比	17.5%	30.4%	25.2%	0.6%	2.5%	7.5%	1.3%
	あなたと子ども夫婦と孫	親とあなた	親とあなた夫婦と子ども	親とあなた夫婦と子ども夫婦と孫	その他	未回答	合計
実数	15	17	35	4	44	5	799
構成比	1.9%	2.1%	4.4%	0.5%	5.5%	0.6%	100%

「単身世帯」、「夫婦のみ世帯」で約 50%である。

⑧ 仕事

	自営業主	自営業手伝い	正規職員	パート、 アルバイト等	派遣職員、嘱託等 (非正規職員)	専業主婦
実数	88	35	111	119	27	142
構成比	11.0%	4.4%	13.9%	14.9%	3.4%	17.8%
	学生	無職	その他	未回答	合計	
実数	9	223	35	10	799	
構成比	1.1%	27.9%	4.4%	1.3%	100.0%	

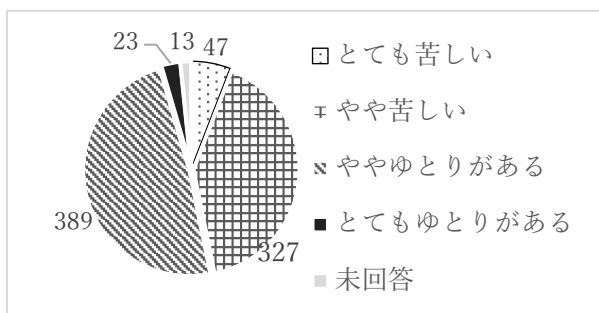


仕事(その他)

- ・ 法人代表(聖護院学区 80代男性)
- ・ 会社役員(下鴨学区 80代男性)
- ・ 会社役員(大原学区 50代男性)
- ・ 役員(市原野学区 60代女性)
- ・ 施設の理事(市原野学区 70代女性)
- ・ 取締役(市原野学区 40代女性)
- ・ 農作業(大原学区 80代女性)
- ・ 農業(静原学区 80代男性)
- ・ 農業(久多学区 80代女性)
- ・ 寺務 御奉仕(川東学区 50代女性)
- ・ 寺院住職(修学院学区 70代男性)
- ・ 年金生活(岡崎学区 80代女性)
- ・ 年金暮らし(別所学区 70代男性)
- ・ 育休中(養徳学区 30代女性)
- ・ 開業医(葵学区 60代男性)
- ・ 子供宅の家事手伝い(葵学区 80代女性)
- ・ シルバー人材センター登録(市原野学区 70代女性)
- ・ 琴・三味線指導(市原野学区 70代女性)

⑨ 経済状況

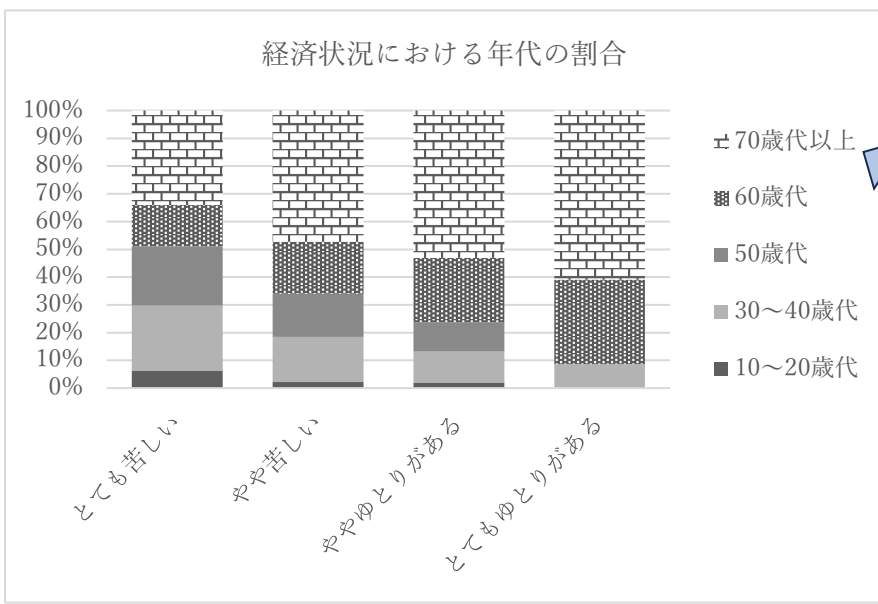
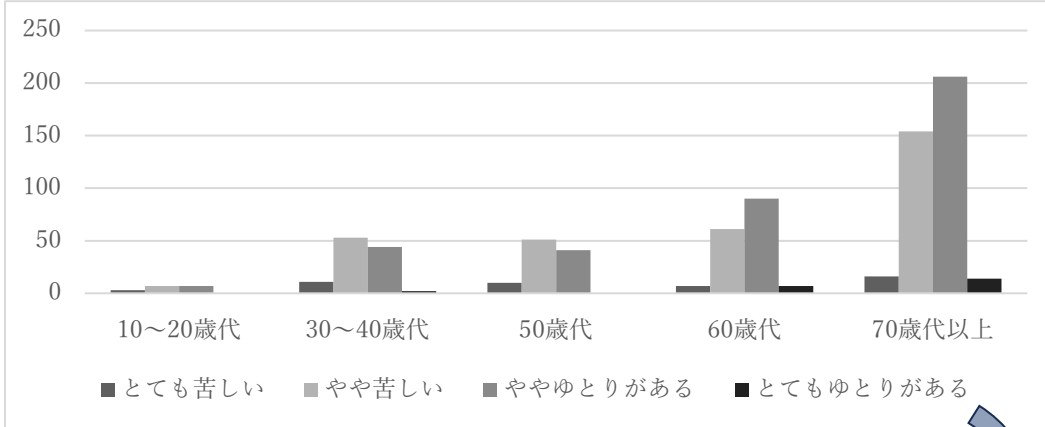
	とても苦しい	やや苦しい	ややゆとりがある	とてもゆとりがある	未回答	合計
実数	47	327	389	23	13	799
構成比	5.9%	40.9%	48.7%	2.9%	1.6%	100.0%



「苦しい」、「やや苦しい」を合わせて、46.8%。
経済的な苦しさを感じながら生活している人が半数近くいる。

クロス集計⑨ 年代別経済状況

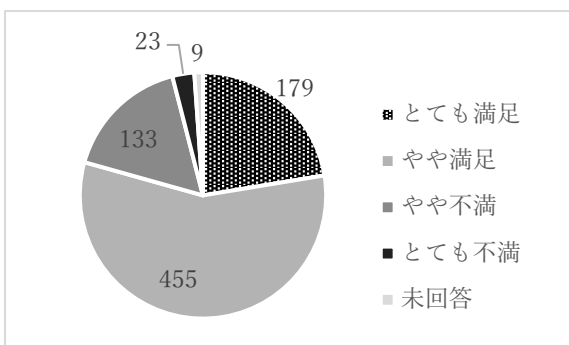
	とても苦しい	やや苦しい	ややゆとりがある	とてもゆとりがある
10～20 歳代	3	7	7	0
30～40 歳代	11	53	44	2
50 歳代	10	51	41	0
60 歳代	7	61	90	7
70 歳代以上	16	154	206	14



若い世代ほど、「とても苦しい」、「やや苦しい」と回答した割合が多い。

⑩ 生活の満足度

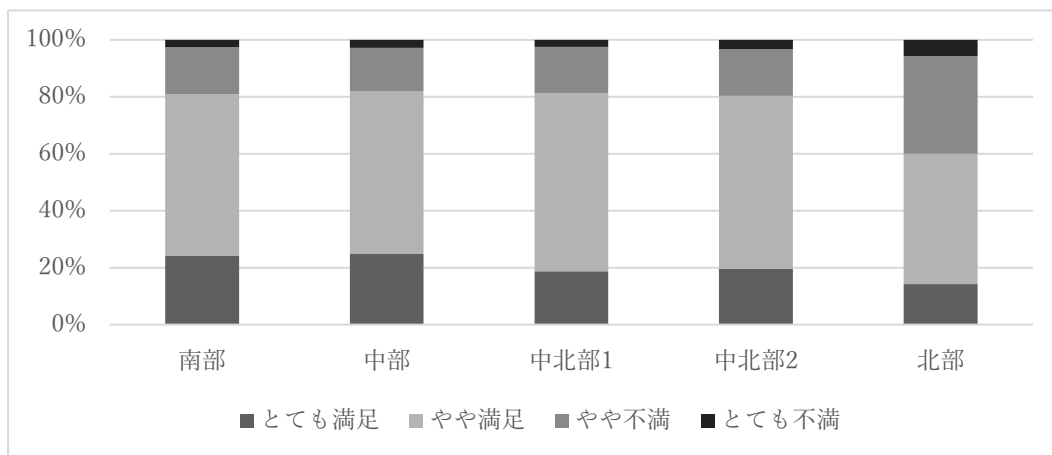
	とても満足	やや満足	やや不満	とても不満	未回答	合計
実数	179	455	133	23	9	799
構成比	22.4%	56.9%	16.6%	2.9%	1.1%	100.0%



「とても満足」、「やや満足」を合わせて、79.3%となっており、約8割の方が現在の生活に満足していると回答。

クロス集計⑩-1 居住地域別生活の満足度

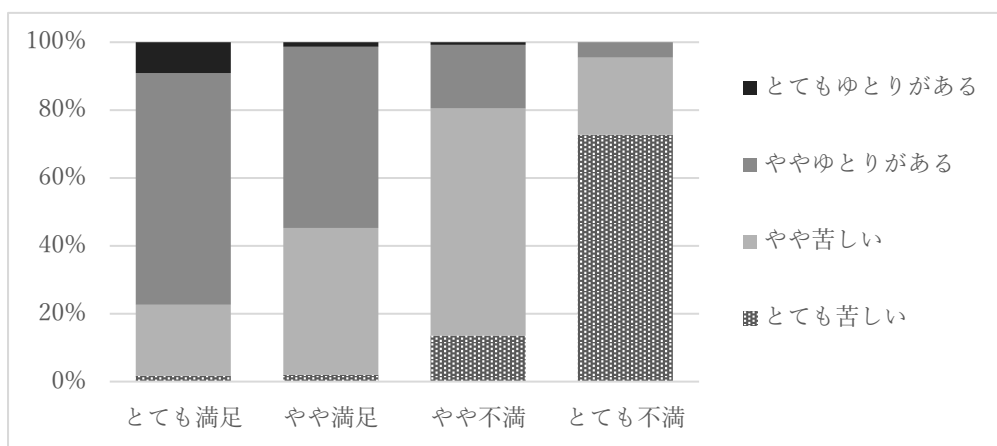
	とても満足	やや満足	やや不満	とても不満
南部	38	89	26	4
中部	87	200	53	10
中北部1	31	103	27	4
中北部2	12	37	10	2
北部	5	16	12	2



北部で、「やや不満」と回答した割合が12人（34.3%）と多くなっている。

クロス集計⑩-2 生活の満足度×経済状況

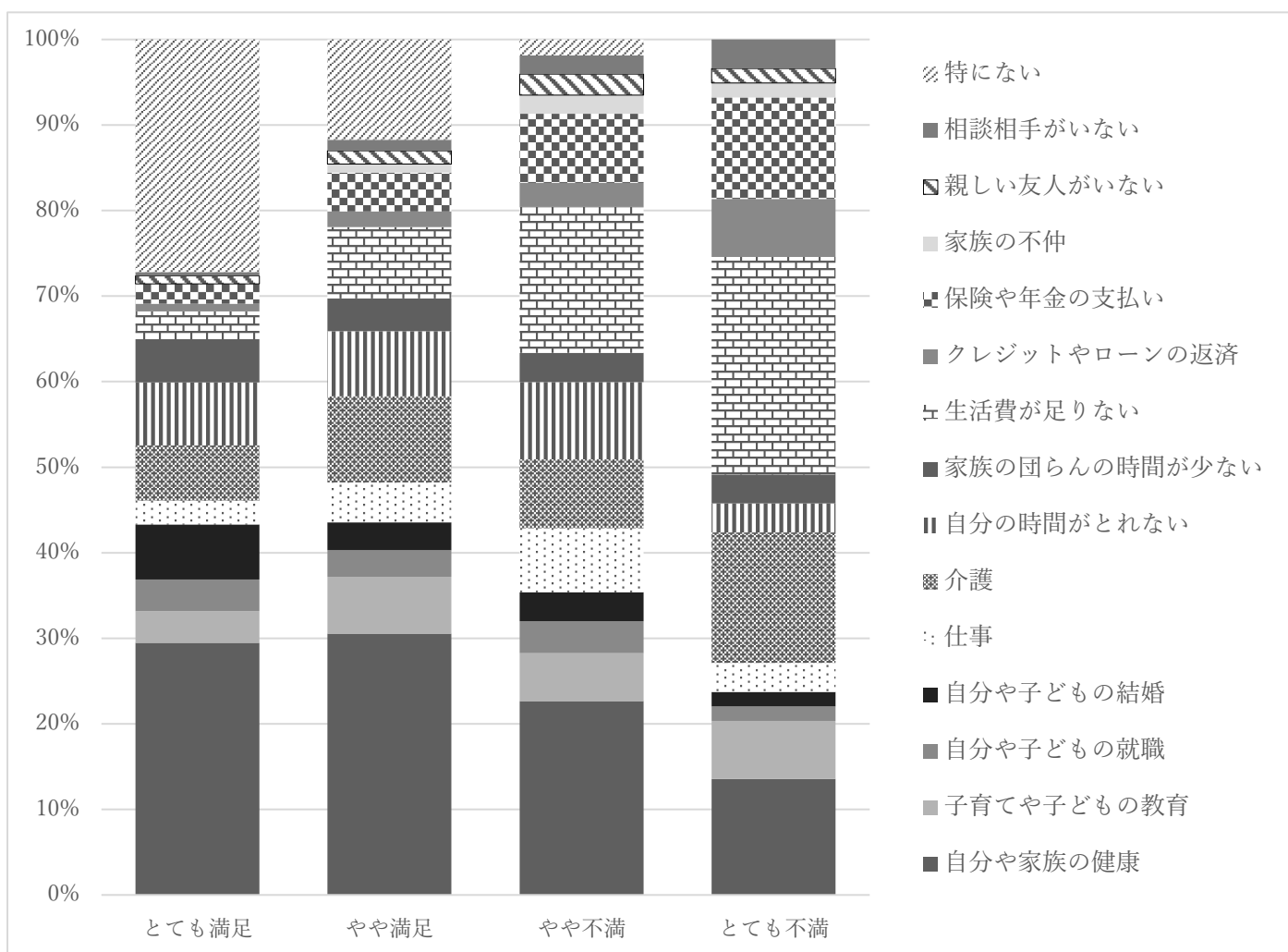
	とても満足	やや満足	やや不満	とても不満
とても苦しい	3	9	18	16
やや苦しい	37	195	89	5
ややゆとりがある	121	241	25	1
とてもゆとりがある	16	6	1	0



生活の満足度が低い回答者に、経済状況が苦しいと回答した者が多く、生活の満足度は、経済状況と関係があることがわかる。

クロス集計⑩-3 生活の満足度×生活の困りごと

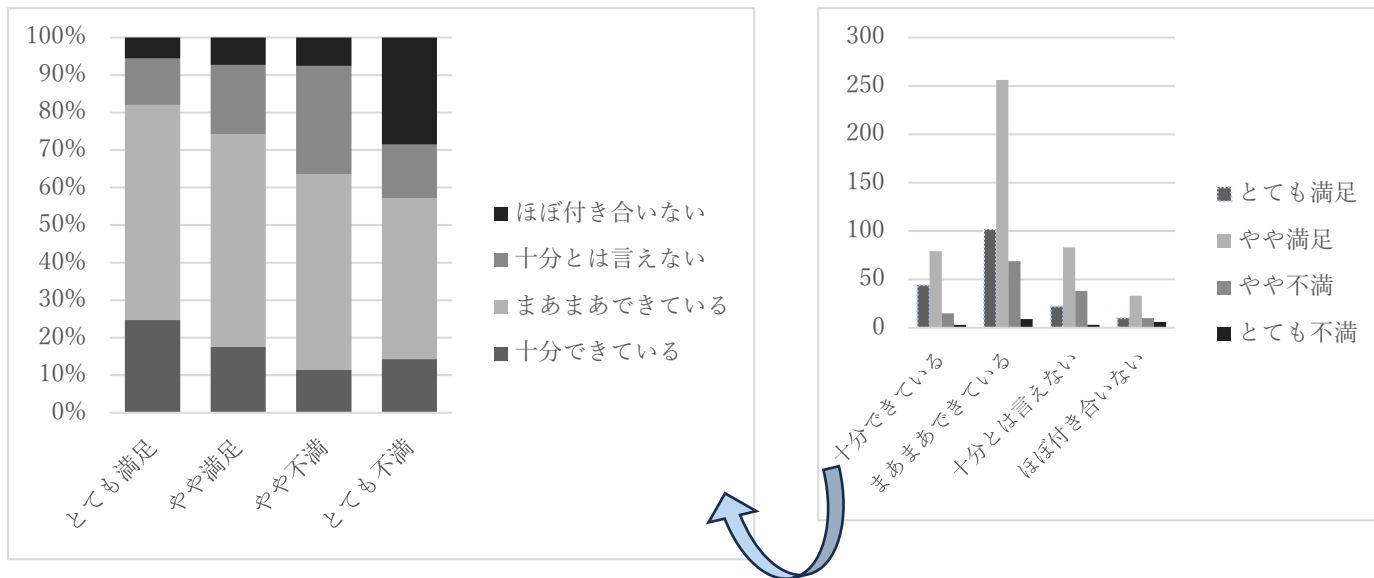
	とても満足	やや満足	やや不満	とても不満
自分や家族の健康	64	216	73	8
子育てや子どもの教育	8	47	18	4
自分や子どもの就職	8	22	12	1
自分や子どもの結婚	14	23	11	1
仕事	6	33	24	2
介護	14	71	26	9
自分の時間がとれない	16	54	29	2
家族の団らの時間が少ない	11	27	11	2
生活費が足りない	7	59	55	15
クレジットやローンの返済	2	13	9	4
保険や年金の支払い	5	32	26	7
家族の不仲	0	7	7	1
親しい友人がいない	2	11	8	1
相談相手がない	1	9	7	2
特にない	59	83	6	0



- ・生活の満足度が低い方は、「生活費が足りない」と回答した者の割合が多く、ある程度満足が高いものは、「自分や家族の健康」と回答した者が約30%となっている。
- ・生活の満足度に関わらず、生活の困りごととして、「子育て」「介護」が一定割合あがっている。

クロス集計⑩-4 生活の満足度×近所づきあいの度合い

	とても満足	やや満足	やや不満	とても不満
十分できている	44	79	15	3
まあまあできている	102	256	69	9
十分とは言えない	22	83	38	3
ほぼ付き合いない	10	33	10	6

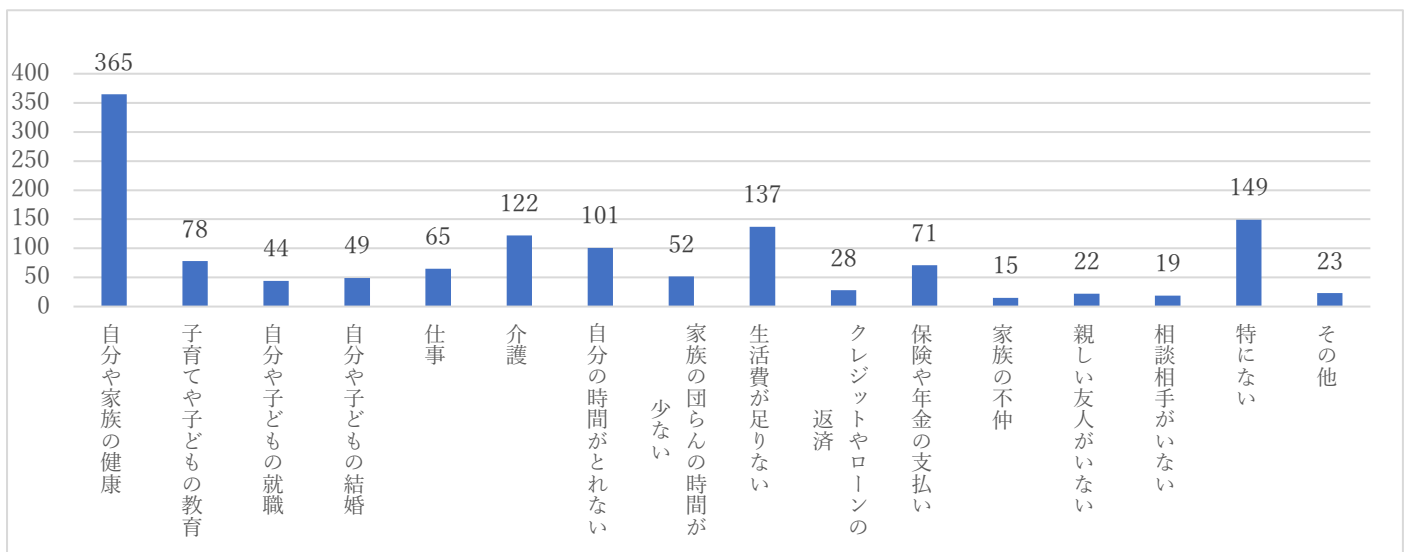


生活の満足度が低いと回答した者は、近所づきあいがあまりできていない割合が多くなっている。

⑪ 生活の困りごと

	自分や家族の健康	子育てや子どもの教育	自分や子どもの就職	自分や子どもの結婚	仕事	介護	自分の時間がとれない	家族の団らんが少ない
実数	365	78	44	49	65	122	101	52
構成比	45.7%	9.8%	5.5%	6.1%	8.1%	15.3%	12.6%	6.5%
	生活費が足りない	クレジットやローンの返済	保険や年金の支払い	家族の不仲	親しい友人がいない	相談相手がない	特にない	その他
実数	137	28	71	15	22	19	149	23
構成比	17.1%	3.5%	8.9%	1.9%	2.8%	2.4%	18.6%	2.9%

※構成比は、全回答者 779 名を分母として計算。



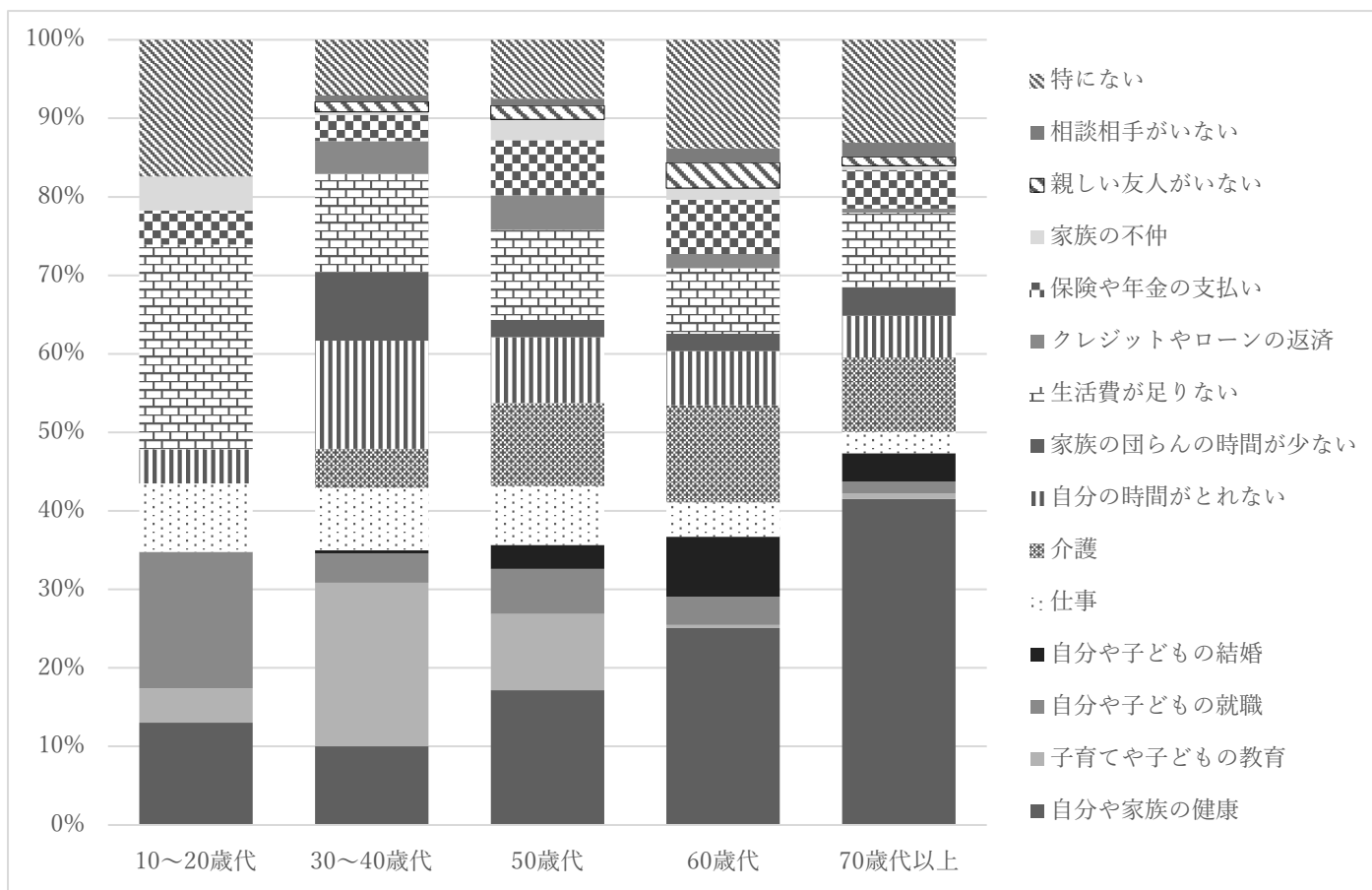
生活の困りごと（その他）

- ・ 相続(川東学区 60 代女性)
- ・ 主人の実家を売却したいが田舎で売れない!(養徳学区 70 代女性)
- ・ 夫婦 2 人持ち家をどうすべきか?(葵学区 60 代女性)
- ・ 将来のお金の心配あ(上高野学区 30 代女性)
- ・ 定年後の生活(八瀬学区 50 代女性)
- ・ 乗り物が不便(八瀬学区 50 代男性)
- ・ バスの回数少ない(八瀬学区 80 代女性)
- ・ 地域から市内に出る際のバスの便が極端に少なくなっているため、小型バスでも増やしてほしい。
(市原野学区 70 代女性)
- ・ 乗合バスの回数が少ない(花背学区 80 代男性)
- ・ 近くに空家ばかり、人が住んでない過疎地(広河原学区 80 代女性)
- ・ 外国人と日本人の交流(北白川学区 50 代女性)

最多が自分や家族の健康 45.7%、特にない 18.6%、生活費が足りない 17.1%、介護 15.3%
自身や家族の健康の関心が高い。

クロス集計⑪-1 年代別生活の困りごと

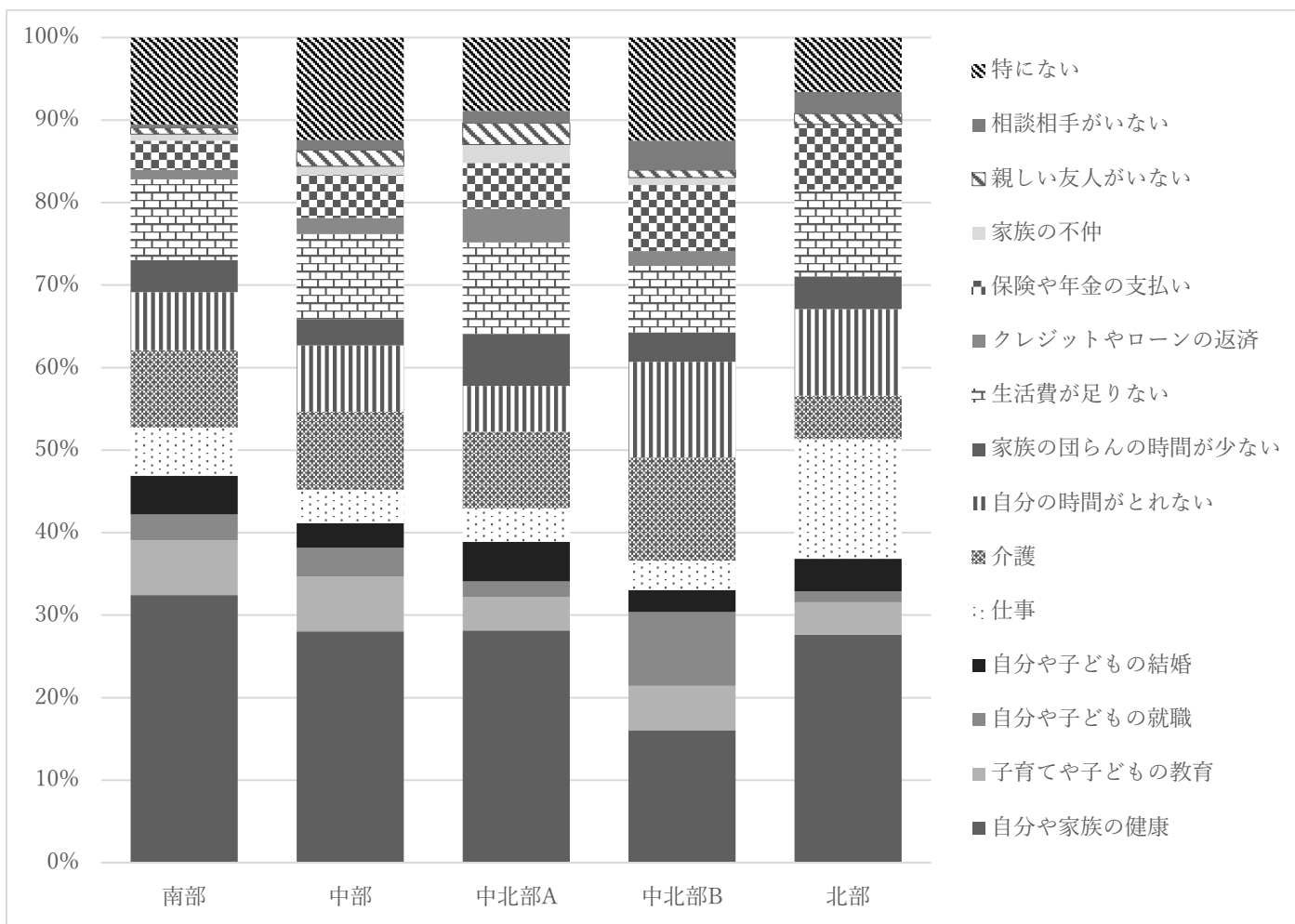
	10～20 歳代	30～40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代以上
自分や家族の健康	3	24	39	69	228
子育てや子どもの教育	1	50	22	1	4
自分や子どもの就職	4	9	13	10	8
自分や子どもの結婚	0	1	7	21	20
仕事	2	19	17	12	15
介護	0	12	24	34	52
自分の時間がとれない	1	33	19	19	29
家族の団らんの時間が少ない	0	21	5	6	20
生活費が足りない	6	30	26	23	52
クレジットやローンの返済	0	10	10	5	3
保険や年金の支払い	1	8	16	19	27
家族の不仲	1	1	6	4	3
親しい友人がいない	0	3	4	9	6
相談相手がない	0	2	2	5	10
特にない	4	17	17	38	72



・年代によって、生活の困りごとが違っている。
 ・20代までは、生活費と就職。30～40代は、子育て。50代以上から年代が上がるほど、健康への関心が高まっている。また、50代から介護が困りごととして一定割合あがっている。

クロス集計⑪-2 居住地域別生活の困りごと

	南部	中部	中北部 1	中北部 2	北部
自分や家族の健康	83	160	76	18	21
子育てや子どもの教育	17	38	11	6	3
自分や子どもの就職	8	20	5	10	1
自分や子どもの結婚	12	17	13	3	3
仕事	15	23	11	4	11
介護	24	54	25	14	4
自分の時間がとれない	18	46	15	13	8
家族の団らんの時間が少ない	10	18	17	4	3
生活費が足りない	25	59	30	9	8
クレジットやローンの返済	3	11	11	2	0
保険や年金の支払い	9	30	15	9	6
家族の不仲	2	6	6	1	0
親しい友人がいない	2	11	7	1	1
相談相手がない	1	7	4	4	2
特にない	27	71	24	14	5



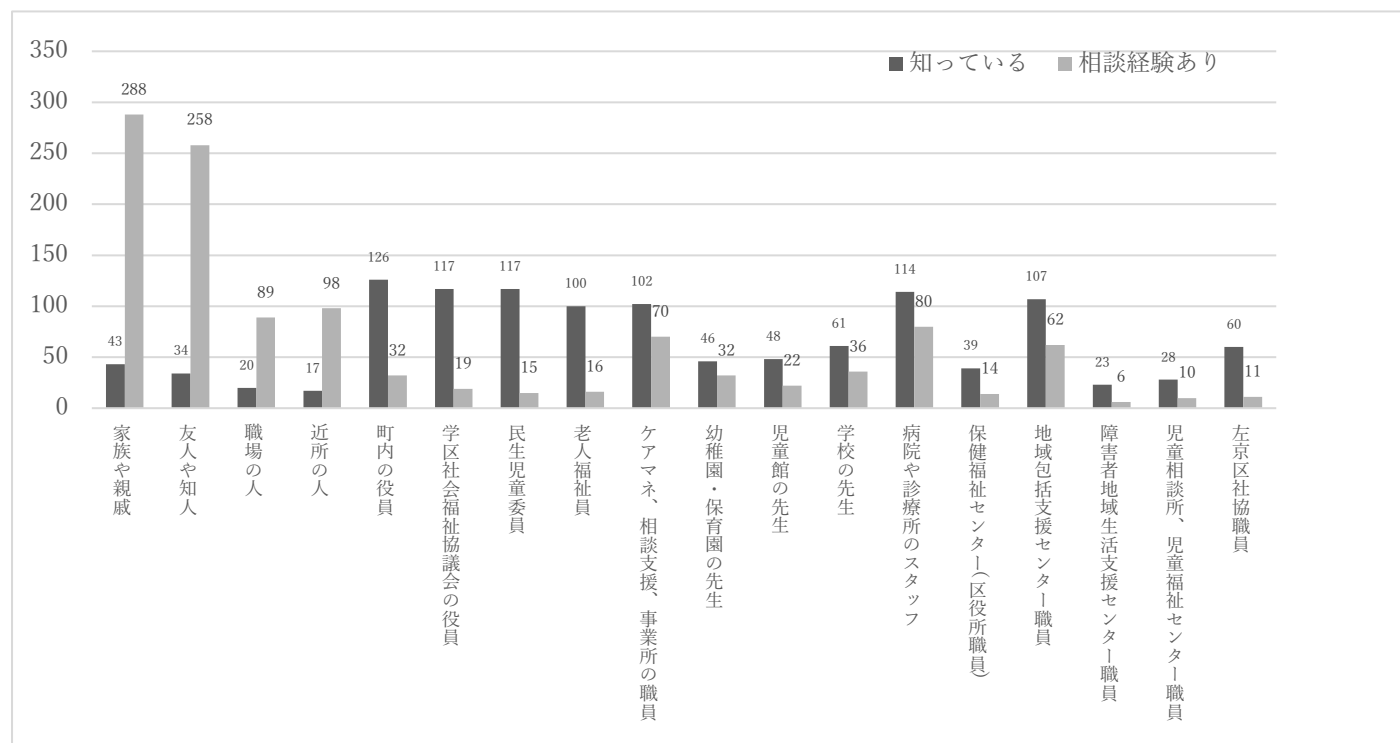
地域間で、困りごとに大きな差がない。

北部は、仕事。中北部 2 は、自分や子どもの就職と回答している割合が若干多い。

⑫ 生活の困りごと相談先

	知っている	相談経験あり
家族や親戚	43	288
友人や知人	34	258
職場の人	20	89
近所の人	17	98
町内の役員	126	32
学区社会福祉協議会の役員	117	19
民生児童委員	117	15
老人福祉員	100	16
ケアマネ、相談支援、事業所の職員	102	70
幼稚園・保育園の先生	46	32
児童館の先生	48	22
学校の先生	61	36
病院や診療所のスタッフ	114	80
保健福祉センター(区役所職員)	39	14
地域包括支援センター職員	107	62
障害者地域生活支援センター職員	23	6
児童相談所、児童福祉センター職員	28	10
左京区社協職員	60	11

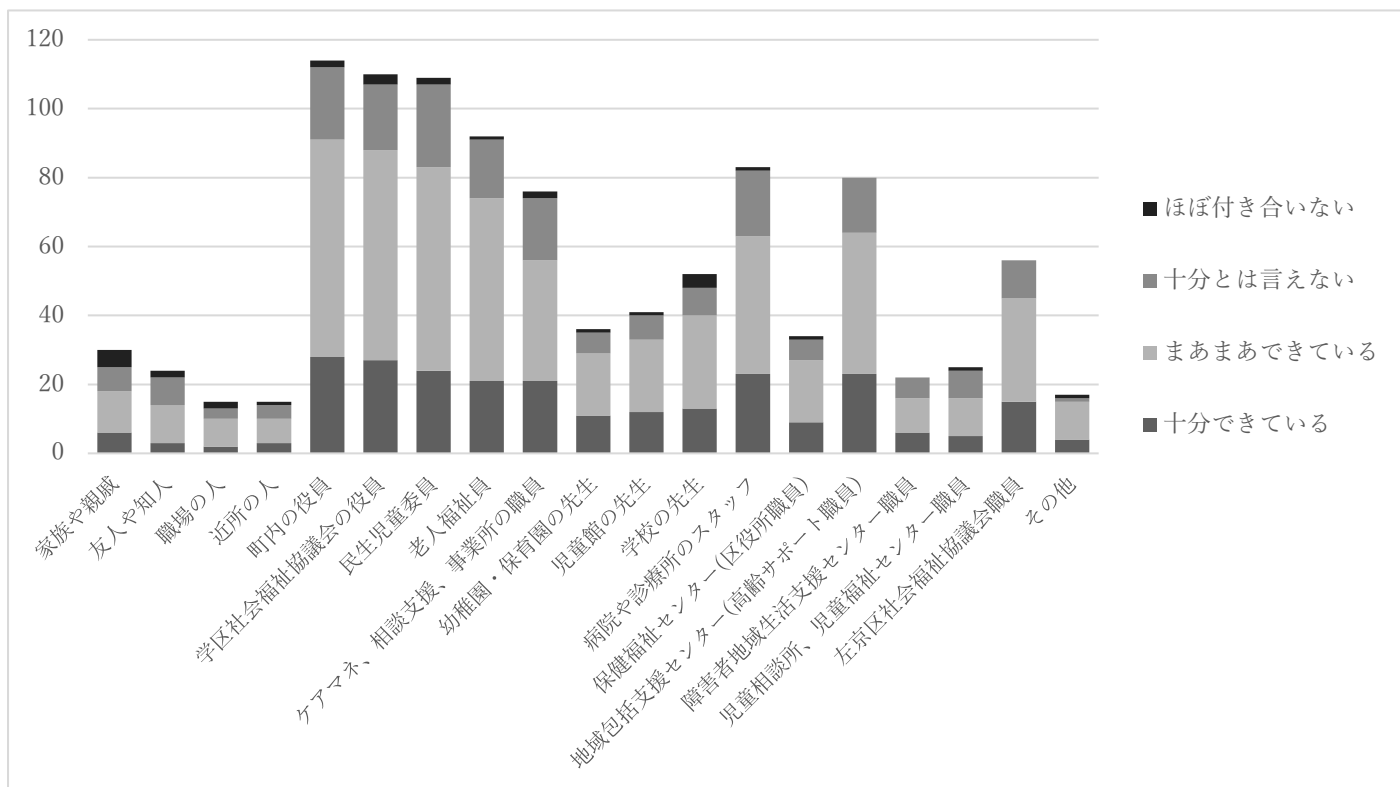
※構成比は、全回答者 779 名を分母として計算。



- ・相談経験ありの最多は家族や親戚 288 件、次いで友人や知人 258 件、近所の人 98 件
- ・相談先として、専門機関や行政機関よりも町内の役員、学区社協役員、民生委員を知っていると回答した方が多かった。
- ・相談先として専門職や地域の役員、民生委員を知っていても、実際の相談相手は、「家族」「友人」が多い。

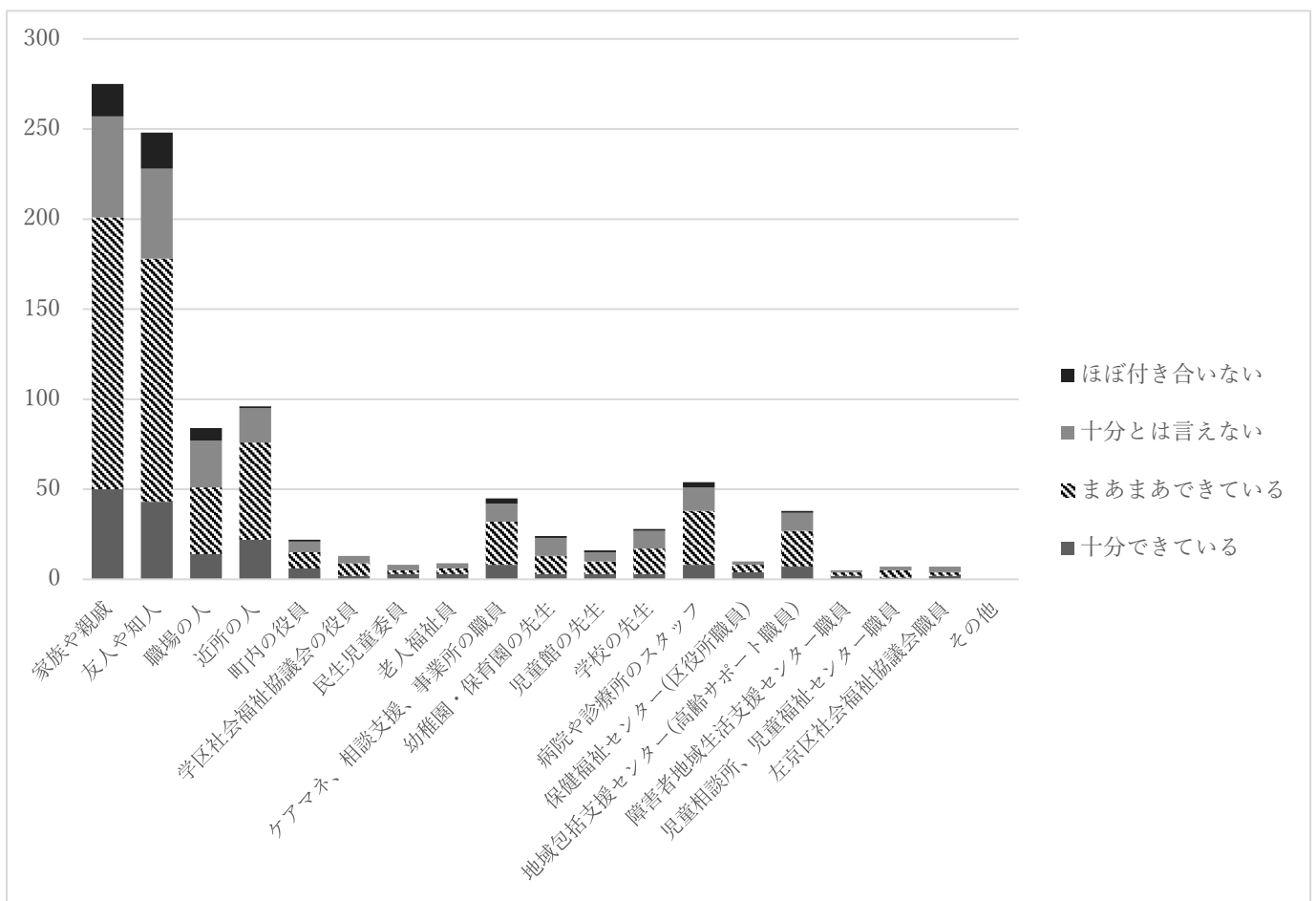
クロス集計⑫-1 困りごとの相談先(知っている)×近所づきあいの程度

	十分できている	まあまあできている	十分とは言えない	ほぼ付き合いない
家族や親戚	6	12	7	5
友人や知人	3	11	8	2
職場の人	2	8	3	2
近所の人	3	7	4	1
町内の役員	28	63	21	2
学区社会福祉協議会の役員	27	61	19	3
民生児童委員	24	59	24	2
老人福祉員	21	53	17	1
ケアマネ、相談支援、事業所の職員	21	35	18	2
幼稚園・保育園の先生	11	18	6	1
児童館の先生	12	21	7	1
学校の先生	13	27	8	4
病院や診療所のスタッフ	23	40	19	1
保健福祉センター(区役所職員)	9	18	6	1
地域包括支援センター(高齢サポート職員)	23	41	16	0
障害者地域生活支援センター職員	6	10	6	0
児童相談所、児童福祉センター職員	5	11	8	1
左京区社会福祉協議会職員	15	30	11	0
その他	4	11	1	1



クロス集計⑫-2 困りごとの相談先(相談経験あり)×近所づきあいの程度

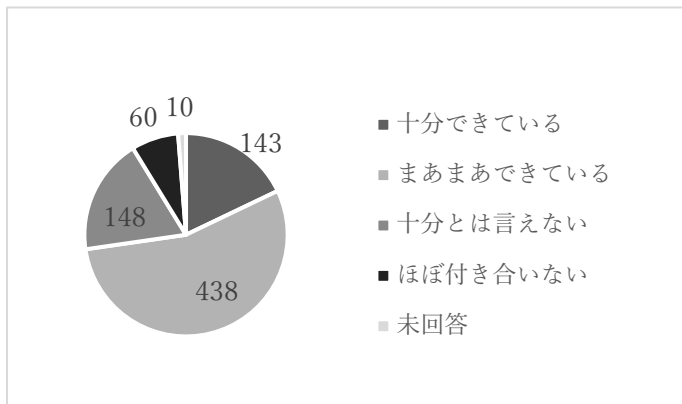
	十分できている	まあまあできている	十分とは言えない	ほぼ付き合いない
家族や親戚	50	151	56	18
友人や知人	43	135	50	20
職場の人	14	37	26	7
近所の人	22	54	19	1
町内の役員	6	9	6	1
学区社会福祉協議会の役員	2	7	4	0
民生児童委員	3	2	3	0
老人福祉員	3	3	3	0
ケアマネ、相談支援、事業所の職員	8	24	10	3
幼稚園・保育園の先生	3	10	10	1
児童館の先生	3	7	5	1
学校の先生	3	14	10	1
病院や診療所のスタッフ	8	30	13	3
保健福祉センター(区役所職員)	4	4	2	0
地域包括支援センター(高齢サポート職員)	7	20	10	1
障害者地域生活支援センター職員	2	2	1	0
児童相談所、児童福祉センター職員	1	4	2	0
左京区社会福祉協議会職員	2	2	3	0
その他	0	0	0	0



「近所づき合いがほぼない」と回答している者は、「家族や親せき」「友人や知人」「職場の人」に相談している割合が多くなっている。

⑬ 近所づきあい

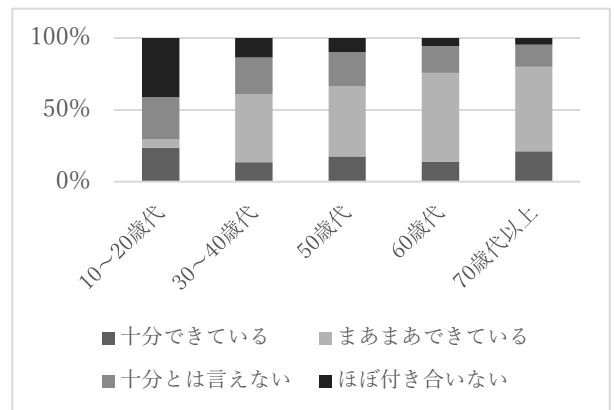
	十分できている	まあまあできている	十分とは言えない	ほぼ付き合いがない	未回答	合計
実数	143	438	148	60	10	799
構成比	17.9%	54.8%	18.5%	7.5%	1.3%	100.0%



・最多が「まあまあ出来ている」54.8%、「十分できている」と合わせると72.7%
 ・手渡しで調査票を配布したので、地域で何かつながりが有る層からの回答となっている可能性あり。

クロス集計⑬ 年代別近所づきあい

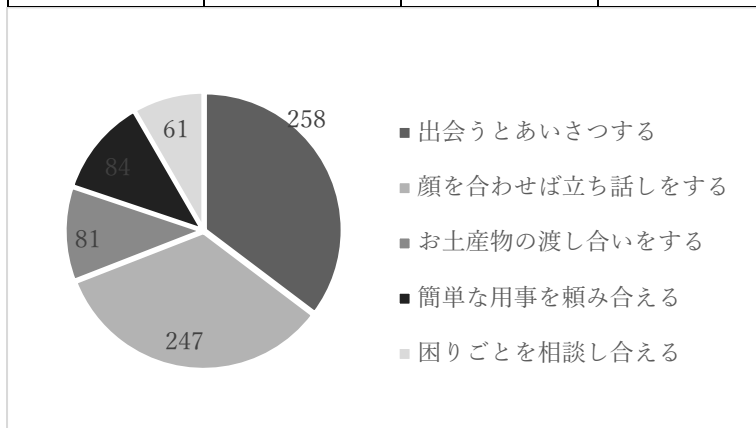
	十分できている	まあまあできている	十分とは言えない	ほぼ付き合いがない
10～20 歳代	4	1	5	7
30～40 歳代	15	52	28	15
50 歳代	18	50	24	10
60 歳代	23	102	31	9
70 歳代以上	83	230	60	18



10～20 歳代は、近所づきあいが「ほぼない」「十分とは言えない」と回答した者が、70%を超えている。

⑭ 近所づきあいの程度 ※⑬で十分できている、まあまあできている、十分とは言えないと答えた 729 名が回答

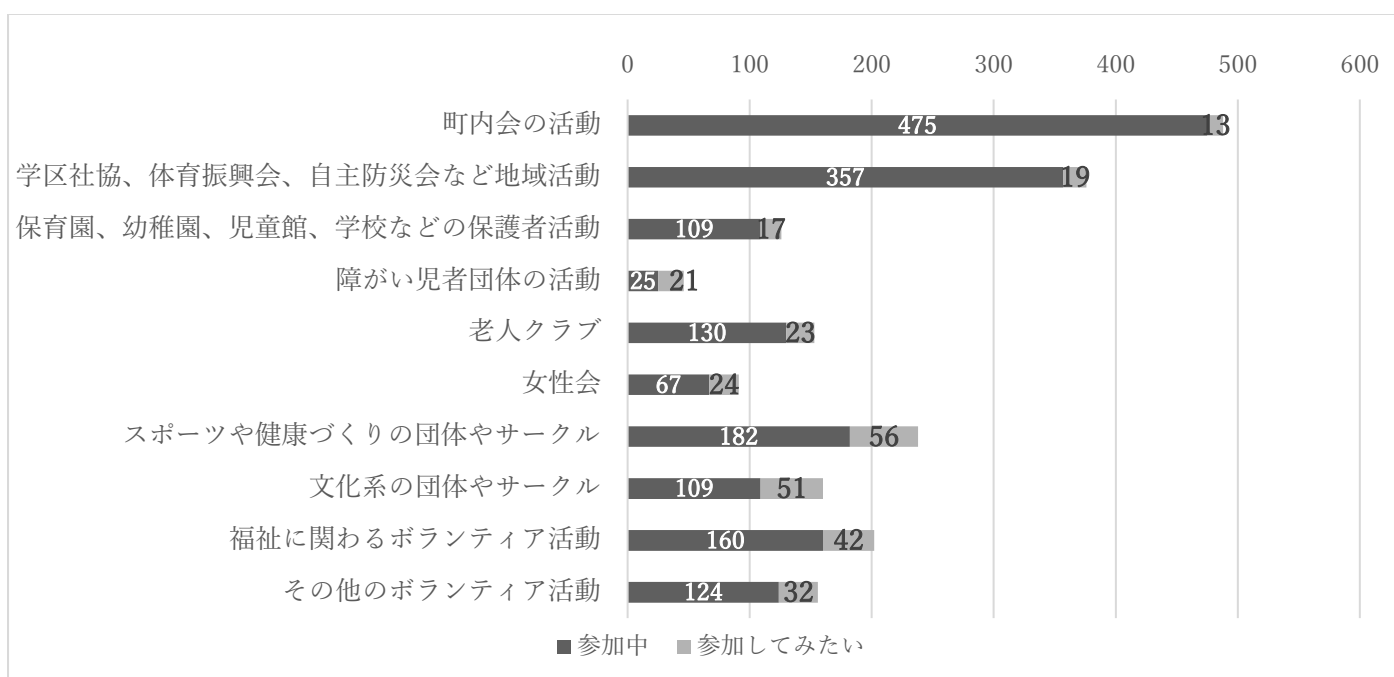
	出会うとあいさつする	顔を合わせば立ち話しをする	お土産物の渡し合いをする	簡単な用事を頼み合える	困りごとを相談し合える	合計
実数	258	247	81	84	61	731
構成比	35.3%	33.8%	11.1%	11.5%	8.3%	100.0%



近所づきあいが「十分できている」と回答した者が143人、「まあまあできている」と回答した者が438人。
 深い付き合いの方との関係で、「出会うとあいさつをする」が258人であることから、挨拶をすることで「まあまあできている」と感じている方がいることがわかる。

⑮ 現在参加している団体や活動、参加してみたい団体や活動

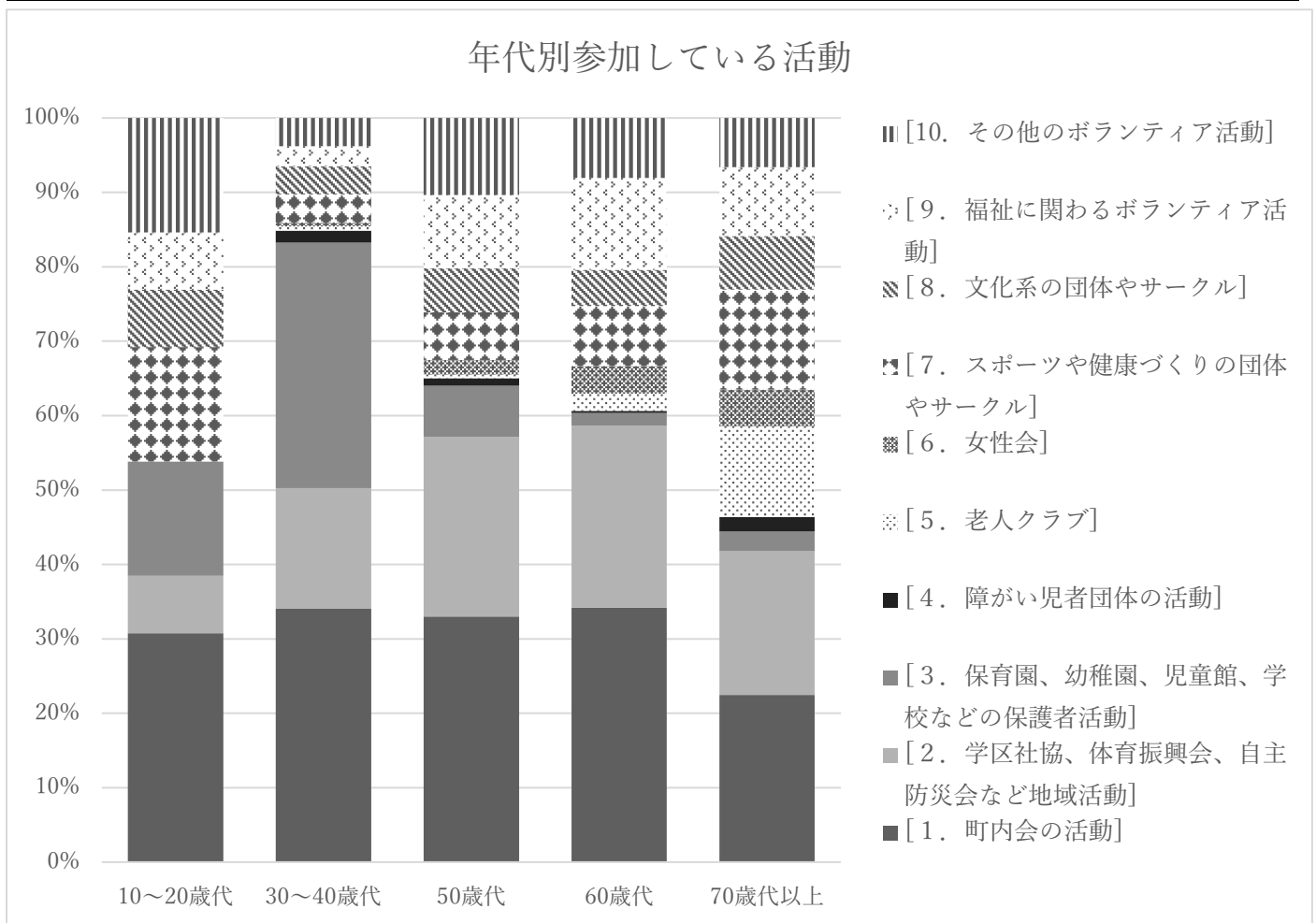
	参加中	参加してみたい	合計
町内会の活動	475	13	488
学区社協、体育振興会、自主防災会など地域活動	357	19	376
保育園、幼稚園、児童館、学校などの保護者活動	109	17	126
障がい児者団体の活動	25	21	46
老人クラブ	130	23	153
女性会	67	24	91
スポーツや健康づくりの団体やサークル	182	56	238
文化系の団体やサークル	109	51	160
福祉に関わるボランティア活動	160	42	202



福祉に係るボランティア活動に参加中 160 件、参加してみたいが 42 件あり、大切にしていきたい回答数

クロス集計⑮ 年代別参加や関心ありの団体や活動

◆参加したことがある団体・活動	10～20 歳代	30～40 歳代	50歳代	60歳代	70歳代 以上
[1. 町内会の活動]	4	63	67	119	221
[2. 学区社協、体育振興会、自主防災会など地域活動]	1	30	49	85	190
[3. 保育園、幼稚園、児童館、学校などの保護者活動]	2	61	14	6	26
[4. 障がい児者団体の活動]	0	3	2	1	19
[5. 老人クラブ]	0	1	1	8	120
[6. 女性会]	0	1	4	13	49
[7. スポーツや健康づくりの団体やサークル]	2	7	13	28	132
[8. 文化系の団体やサークル]	1	7	12	17	71
[9. 福祉に関わるボランティア活動]	1	5	20	43	91
[10. その他のボランティア活動]	2	7	21	28	65

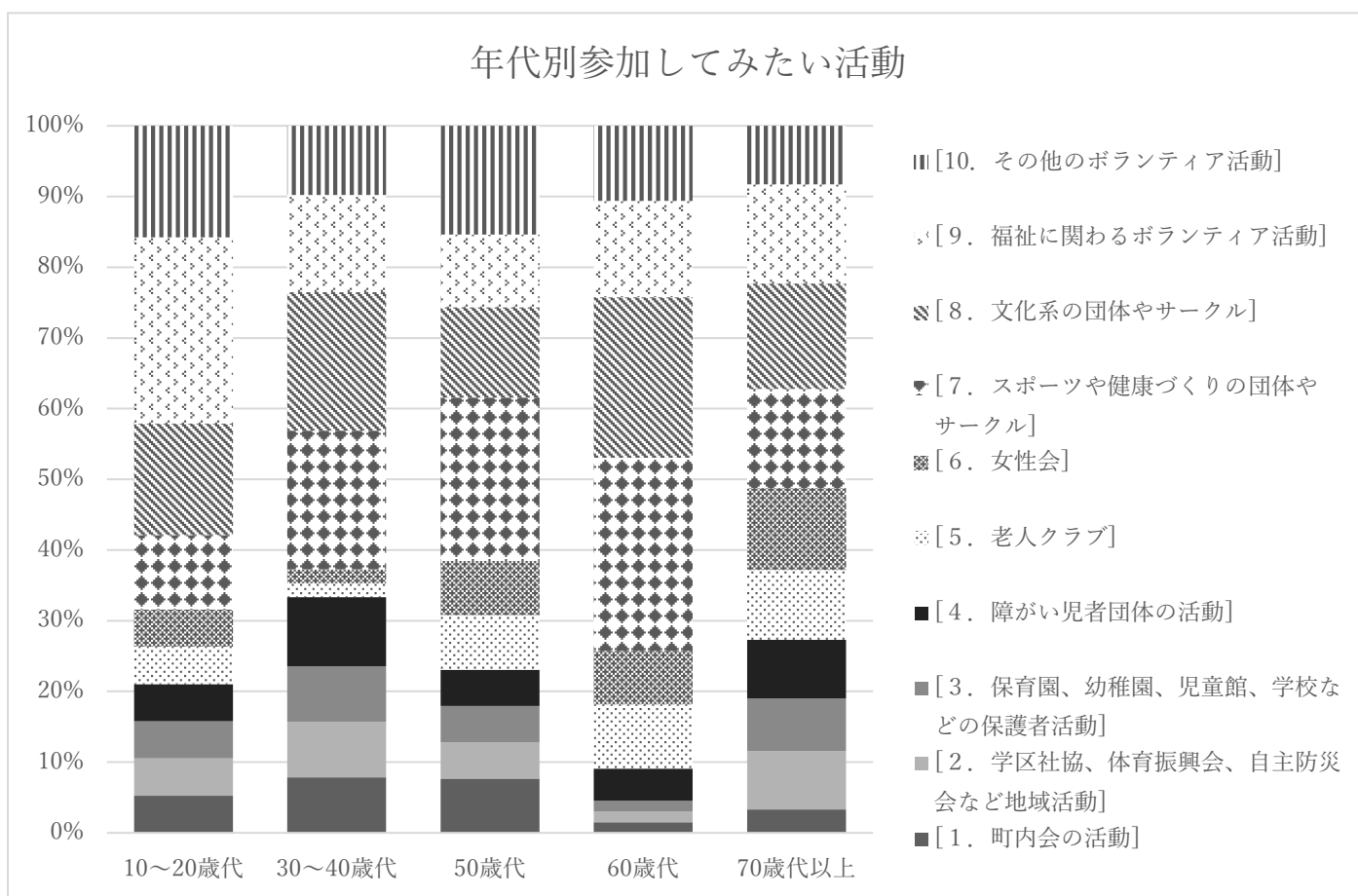


30～40歳代は、保育園や学校などの保護者活動に参加している割合が高く、学区の地域活動への参加割合が少ない。

50歳代以降に、「学区社協、体振、自主防などの地域活動」参加している割合が多くなっている。

「スポーツや健康づくりの団体やサークル」は、10～20歳代と70歳代で、割合が少し多くなっている。

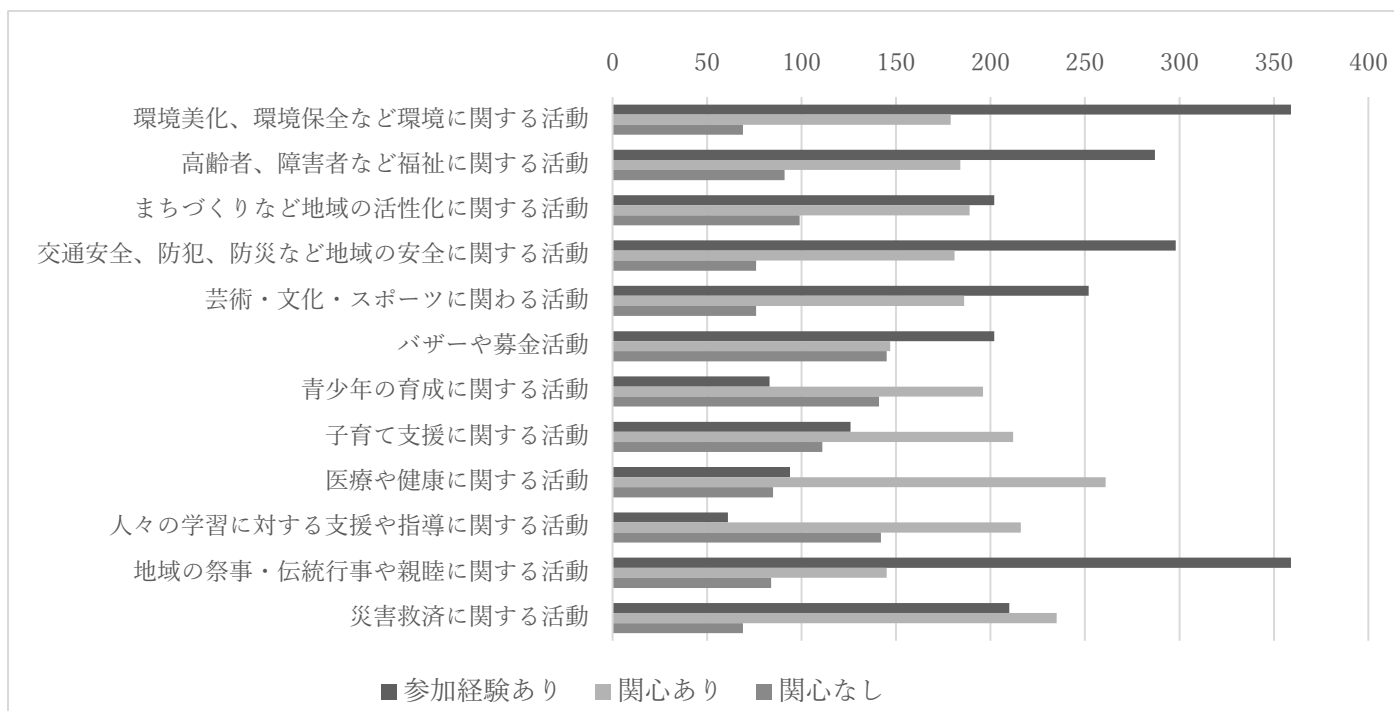
◆参加してみたい団体・活動	10～20 歳代	30～40 歳代	50歳代	60歳代	70歳代 以上
[1. 町内会の活動]	1	4	3	1	4
[2. 学区社協、体育振興会、自主防災会など地域活動]	1	4	2	1	10
[3. 保育園、幼稚園、児童館、学校などの保護者活動]	1	4	2	1	9
[4. 障がい児者団体の活動]	1	5	2	3	10
[5. 老人クラブ]	1	1	3	6	12
[6. 女性会]	1	1	3	5	14
[7. スポーツや健康づくりの団体やサークル]	2	10	9	18	17
[8. 文化系の団体やサークル]	3	10	5	15	18
[9. 福祉に関わるボランティア活動]	5	7	4	9	17
[10. その他のボランティア活動]	3	5	6	7	10



どの年代でも、社会参加や余暇の充実につながる活動に参加したいと考えている。
一方で、町内会や地域活動への参加希望は少ない。

⑩ 地域活動への参加・関心

	参加経験あり	関心あり	関心なし	合計
環境美化、環境保全など環境に関する活動	359	179	69	607
高齢者、障害者など福祉に関する活動	287	184	91	562
まちづくりなど地域の活性化に関する活動	202	189	99	490
交通安全、防犯、防災など地域の安全に関する活動	298	181	76	555
芸術・文化・スポーツに関わる活動	252	186	76	514
バザーや募金活動	202	147	145	494
青少年の育成に関する活動	83	196	141	420
子育て支援に関する活動	126	212	111	449
医療や健康に関する活動	94	261	85	440
人々の学習に対する支援や指導に関する活動	61	216	142	419
地域の祭事・伝統行事や親睦に関する活動	359	145	84	588
災害救済に関する活動	210	235	69	514

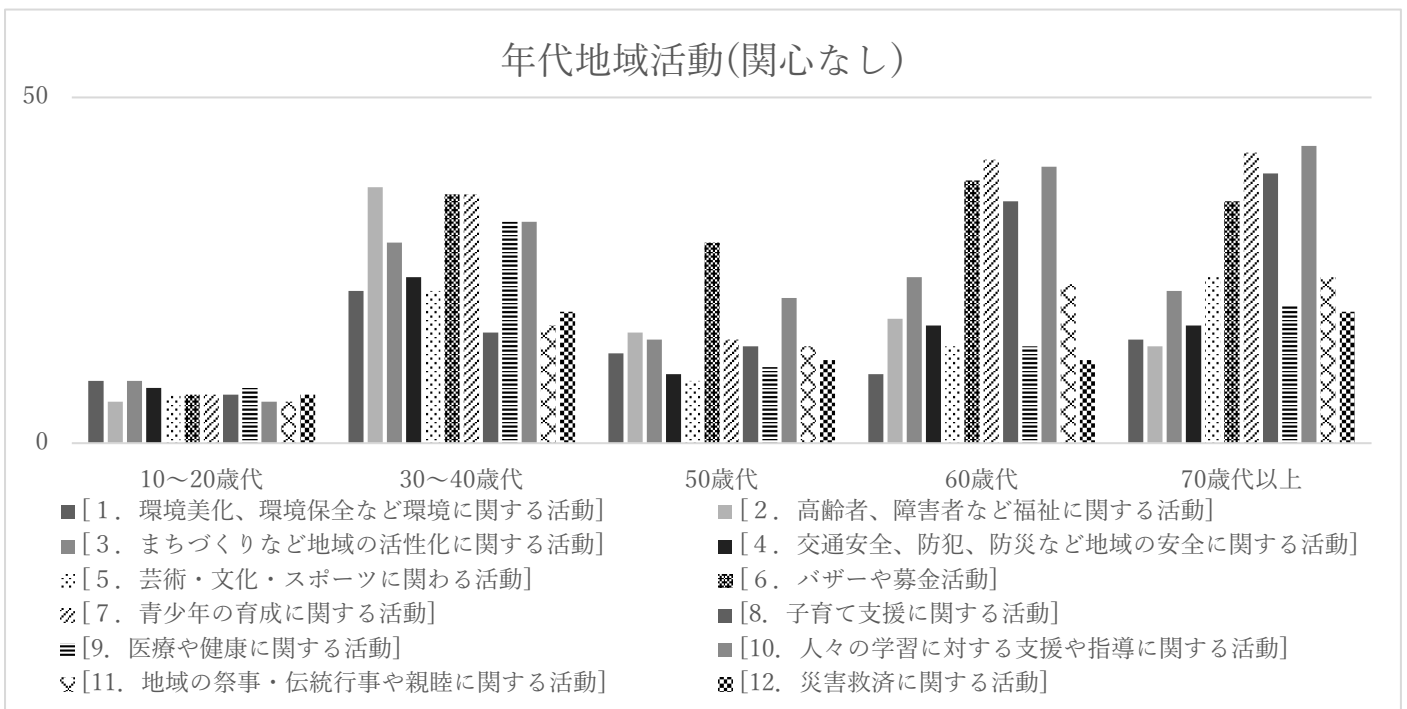
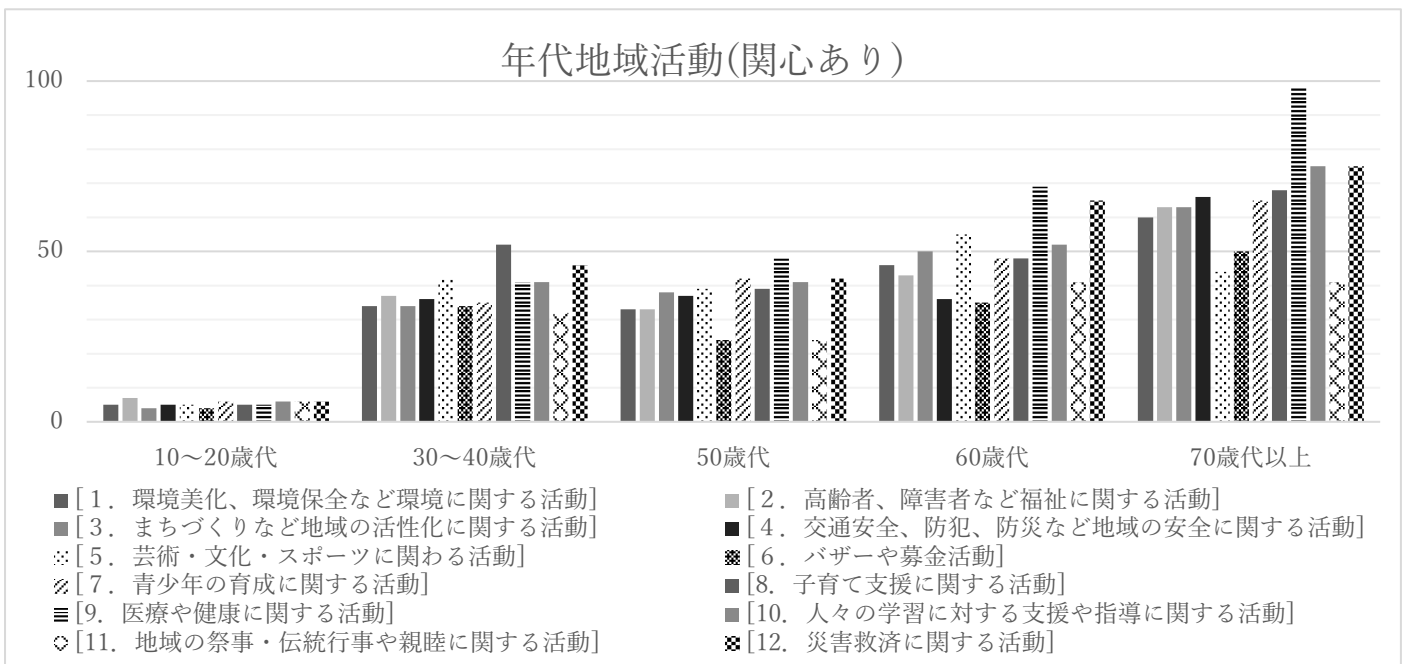
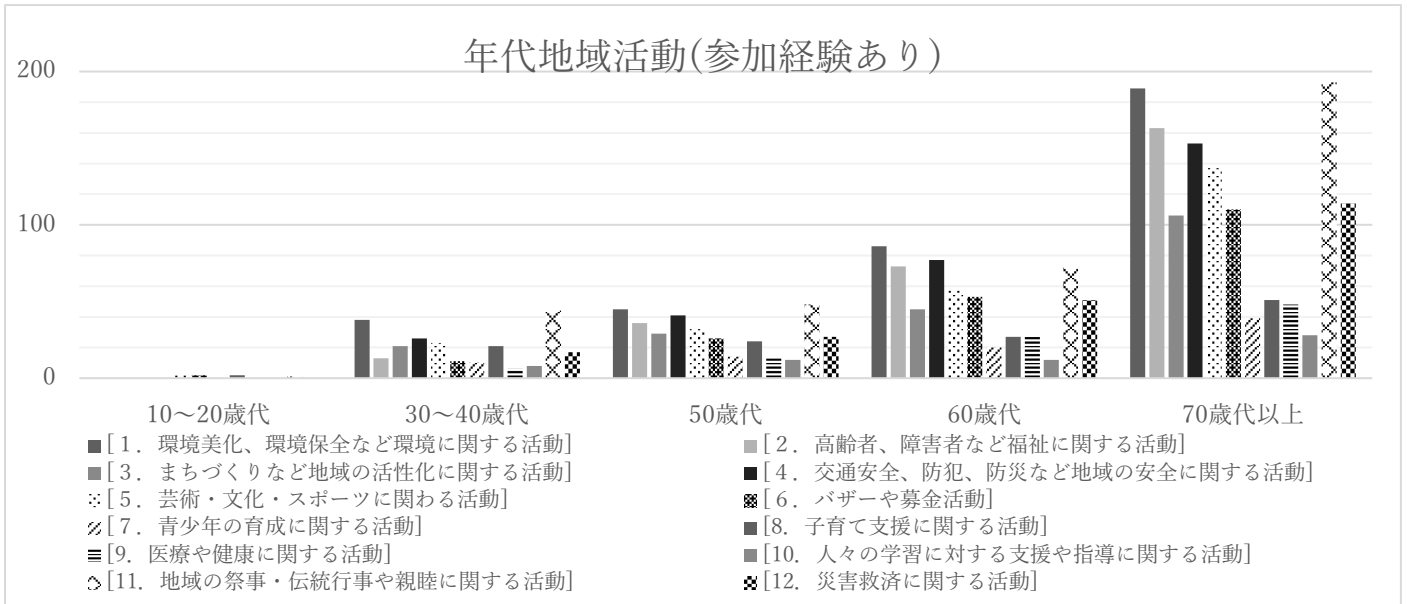


- ・参加では環境に関する活動と祭事伝統行事が最多の 359 件、関心では医療や健康に関する活動が最多の 261 件。関心なしではバザーや募金活動の 145 件が最多
- ・医療や健康への関心が高いため、健康すこやか学級等の地域事業のプログラムに医療や健康に関することを取り上げるとよいのでは。
- ・青少年や子どもに関する活動は、「関心がある」196 件「関心がない方」141 件でともに多く、関心が分かれる活動と言える。

クロス集計⑩ 年代別地域活動への参加・関心

		10～20 歳代	30～40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代以上
[1. 環境美化、環境保全など環境に関する活動]	参加経験あり	0	38	45	86	189
	関心あり	5	34	33	46	60
	関心なし	9	22	13	10	15
[2. 高齢者、障害者など福祉に関する活動]	参加経験あり	0	13	36	73	163
	関心あり	7	37	33	43	63
	関心なし	6	37	16	18	14
[3. まちづくりなど地域の活性化に関する活動]	参加経験あり	0	21	29	45	106
	関心あり	4	34	38	50	63
	関心なし	9	29	15	24	22
[4. 交通安全、防犯、防災など地域の安全に関する活動]	参加経験あり	0	26	41	77	153
	関心あり	5	36	37	36	66
	関心なし	8	24	10	17	17
[5. 芸術・文化・スポーツに関わる活動]	参加経験あり	2	23	32	57	137
	関心あり	5	42	39	55	44
	関心なし	7	22	9	14	24
[6. バザーや募金活動]	参加経験あり	2	11	26	53	110
	関心あり	4	34	24	35	50
	関心なし	7	36	29	38	35
[7. 青少年の育成に関する活動]	参加経験あり	0	10	14	20	39
	関心あり	6	35	42	48	65
	関心なし	7	36	15	41	42
[8. 子育て支援に関する活動]	参加経験あり	2	21	24	27	51
	関心あり	5	52	39	48	68
	関心なし	7	16	14	35	39
[9. 医療や健康に関する活動]	参加経験あり	0	6	13	27	48
	関心あり	5	41	48	69	98
	関心なし	8	32	11	14	20
[10. 人々の学習に対する支援や指導に関する活動]	参加経験あり	0	8	12	12	28
	関心あり	6	41	41	52	75
	関心なし	6	32	21	40	43
[11. 地域の祭り・伝統行事や親睦に関する活動]	参加経験あり	1	44	48	72	193
	関心あり	6	32	24	41	41
	関心なし	6	17	14	23	24
[12. 災害救済に関する活動]	参加経験あり	0	17	27	51	114
	関心あり	6	46	42	65	75
	関心なし	7	19	12	12	19

自分に関係のない世代の活動に関心がない者が多い。



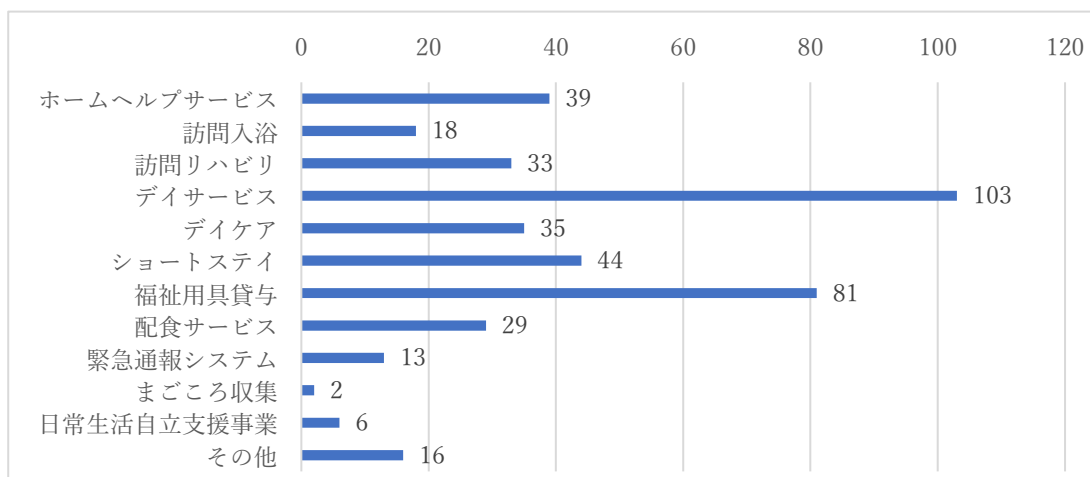
⑰ 福祉サービスの利用

	いる	いない	未回答	合計
実数	137	630	32	799
構成比	17.1%	78.8%	4.0%	100.0%

⑱ 利用したことがある福祉サービス

	高齢者福祉	障害者福祉	児童福祉
実数	419	92	252

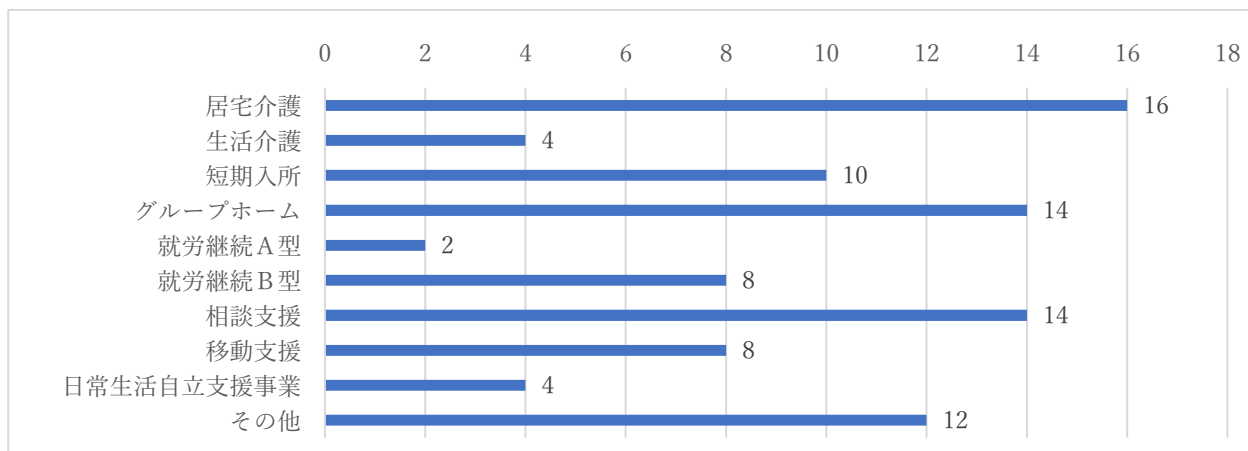
⑲ 利用したことのあある高齢者福祉サービス



利用したことのあある高齢者福祉サービス（その他）

- ・ 老人福祉センター(修学院学区 80代男性)
- ・ 老人福祉センター利用(左京区以外 60代男性)
- ・ 手すりの設置(修学院学区 不明女性)

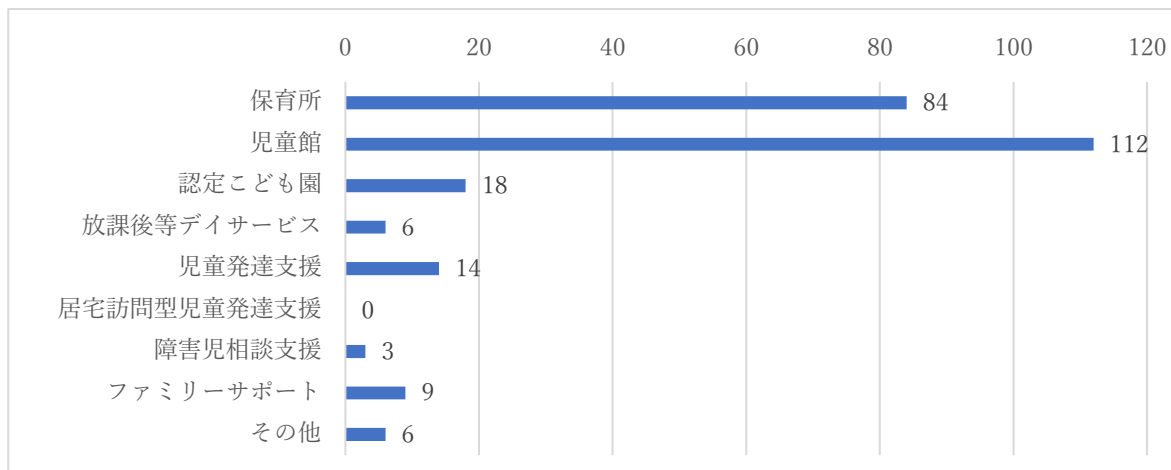
⑳ 利用したことのあある障害者福祉サービス



利用したことのあある障害者福祉サービス（その他）

- ・ 居宅に手すり等設置(市原野学区 70代女性)
- ・ 手すり、階段、段差(久多学区 80代女性)

⑳ 利用したことのある児童福祉サービス



利用したことのある児童福祉サービス（その他）

- ・ 児童相談所、迦陵園、青い鳥(明德学区 50代男性)

㉑ 動けなくなったときの生活

	介護や医療保険、福祉サービス、ボランティアを利用し、一人で生活したい	介護や医療保険、福祉サービス、ボランティアを利用し、子どもに頼りたい	介護や医療保険、福祉サービス、ボランティアを利用し、兄弟や親戚に頼りたい	施設や病院に入りたい	まだわからない	その他	合計
実数	298	98	13	141	226	11	787
構成比	37.9%	12.5%	1.7%	17.9%	28.7%	1.4%	100.0%

動けなくなったときの生活（その他）

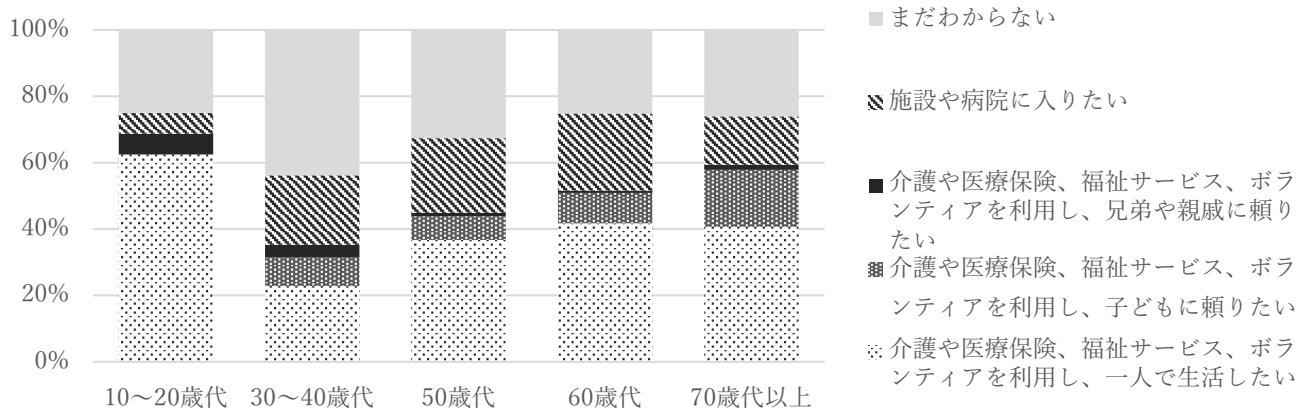
- ・ あるがままに(岡崎学区 50代回答しない)
- ・ 1と4の2つ(浄楽学区 80代女性)
- ・ 頼りになる信頼できる人、動けなくなった状態の私自身を中心に考えてくれる(環境のある働く人も)場所(養正学区 50代女性)

・ 子どもや親戚に頼らず、サービス利用しながら一人暮らしか、施設や病院に入ることを希望する人が半数以上

クロス集計㉑ 年代別動けなくなったときの生活

	10～20歳代	30～40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
1 介護や医療保険、福祉サービス、ボランティアを利用し、一人で生活したい	10	24	36	68	159
2 介護や医療保険、福祉サービス、ボランティアを利用し、子どもに頼りたい	0	9	7	15	67
3 介護や医療保険、福祉サービス、ボランティアを利用し、兄弟や親戚に頼りたい	1	4	1	1	6
4 施設や病院に入りたい	1	22	22	38	57
5 まだわからない	4	46	32	41	102
6 その他	0	4	4	1	2

年代別動けなくなった時の生活



30~40歳代の約40%がまだわからないと回答。

⑳ 手助けしてほしかったこと・してほしいこと

	趣味の相手	ちょっとした買い物	通院の付き添い	電球の取り換えなどの簡単な作業	安否確認や声かけ	食事作り、洗濯、掃除、ごみ出し	病気の時の看病や世話
実数	89	253	134	177	296	157	96
構成比	11.1%	31.7%	16.8%	22.2%	37.0%	19.6%	12.0%
	短時間の子どもの預かり	短時間の介護	悩みや心配事の相談	特にない	その他		
実数	40	102	143	148	27		
構成比	5.0%	12.8%	17.9%	18.5%	3.4%		

※構成比は、全回答者 779 名を分母として計算。

手助けしてほしかったこと・してほしいこと (その他)

< 話相手 >

- ・ 1人になれる時間 (美容院に行く) (川東学区 50代女性)
- ・ おしゃべり (川東学区 60代女性)
- ・ 話し相手 (葵学区 60代女性)
- ・ 常に人と接したい。おしゃべりしたい。 (不明学区 70代女性)

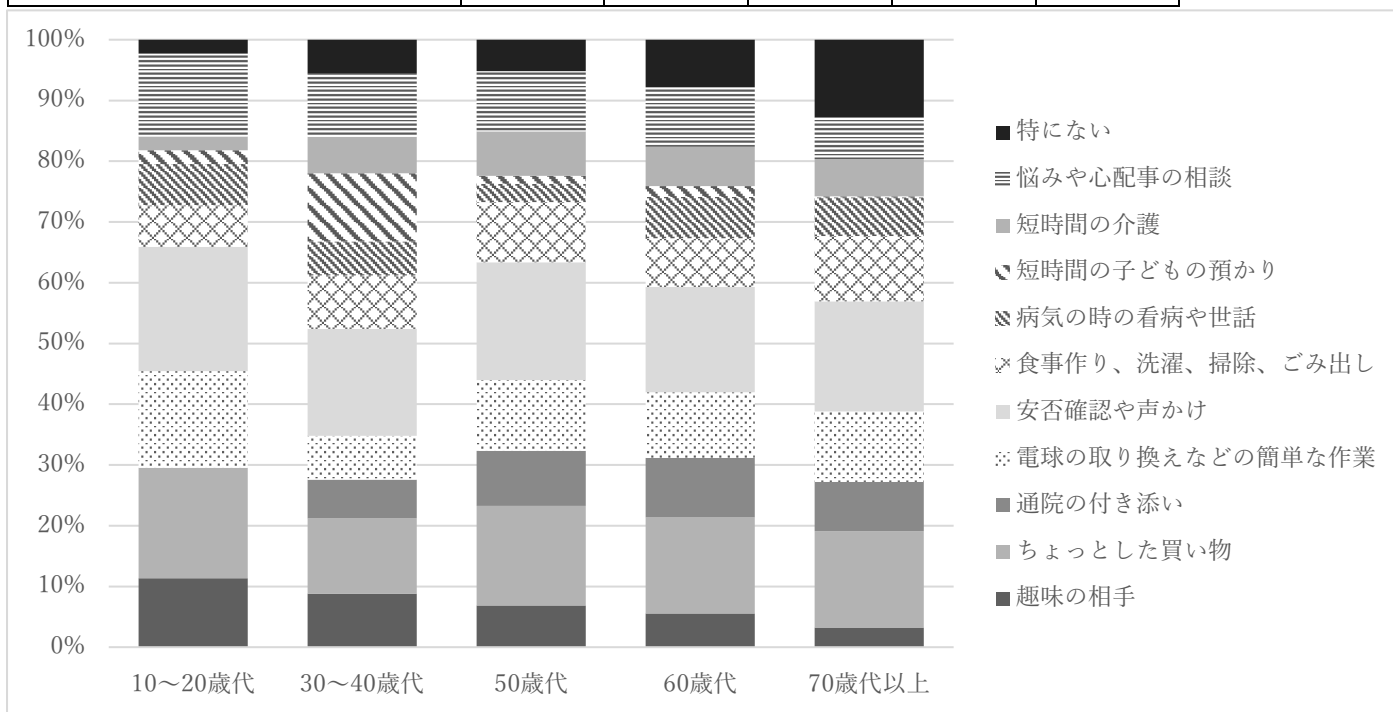
< その他 >

- ・ 病院へ送ってほしい。帰りはタクシーがある (岡崎学区 70代女性)
- ・ 手話言語 or 筆談で話せる相手が必要 (岩倉南学区 30代女性)
- ・ 日常の事項 (八瀬学区 80代男性)
- ・ 福祉医療充実の署名など (市原野学区 60代女性)
- ・ わからない

世帯構造が変化し、単独世帯が増加する中、家族に頼れない人が増加し、手助けを必要とする方が約80%となっている。

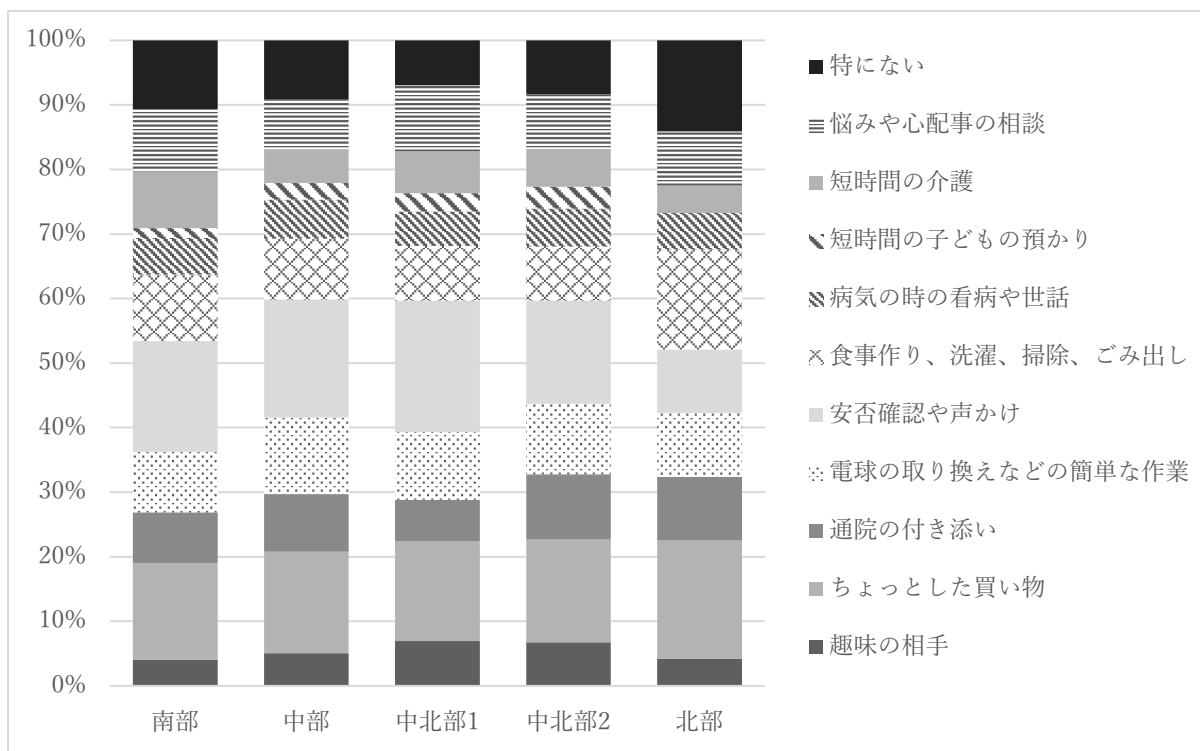
クロス集計⑳-1 年代別手助けしてほしかったこと・してほしいこと

	10～20歳代	30～40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
趣味の相手	5	22	16	22	23
ちょっとした買い物	8	31	38	63	112
通院の付き添い	0	16	21	39	57
電球の取り換えなどの簡単な作業	7	18	27	43	82
安否確認や声かけ	9	44	45	69	128
食事作り、洗濯、掃除、ごみ出し	3	22	23	32	76
病気の時の看病や世話	3	14	7	27	45
短時間の子どもの預かり	1	28	3	7	1
短時間の介護	1	15	17	26	43
悩みや心配事の相談	6	26	23	39	49
特にない	1	14	12	31	90



クロス集計⑳-2 居住地域別手助けしてほしかったこと・してほしいこと

	南部	中部	中北部1	中北部2	北部
趣味の相手	13	35	27	8	3
ちょっとした買い物	48	109	60	19	13
通院の付き添い	25	62	25	12	7
電球の取り換えなどの簡単な作業	30	82	41	13	7
安否確認や声かけ	55	127	79	19	7
食事作り、洗濯、掃除、ごみ出し	33	65	33	10	11
病気の時の看病や世話	18	42	21	7	4
短時間の子どもの預かり	5	18	11	4	0
短時間の介護	28	36	25	7	3
悩みや心配事の相談	31	54	40	10	6
特にない	34	63	27	10	10



地域による大きな差はない。

㊤ 困っている方にできそうなこと

	趣味の相手	ちょっとした買い物	通院の付き添い	電球の取り換えなどの簡単な作業	安否確認や声かけ	食事作り、洗濯、掃除、ごみ出し	病気の時の看病や世話
実数	152	454	139	277	538	109	43
構成比	19.0%	56.8%	17.4%	34.7%	67.3%	13.6%	5.4%
	短時間の子どもの預かり	短時間の介護	悩みや心配事の相談	特にない	その他		
実数	111	56	218	61	11		
構成比	13.9%	7.0%	27.3%	7.6%	1.4%		

※構成比は、全回答者 779 名を分母として計算。

年代別困っている方にできそうなこと（その他）

< 話相手 >

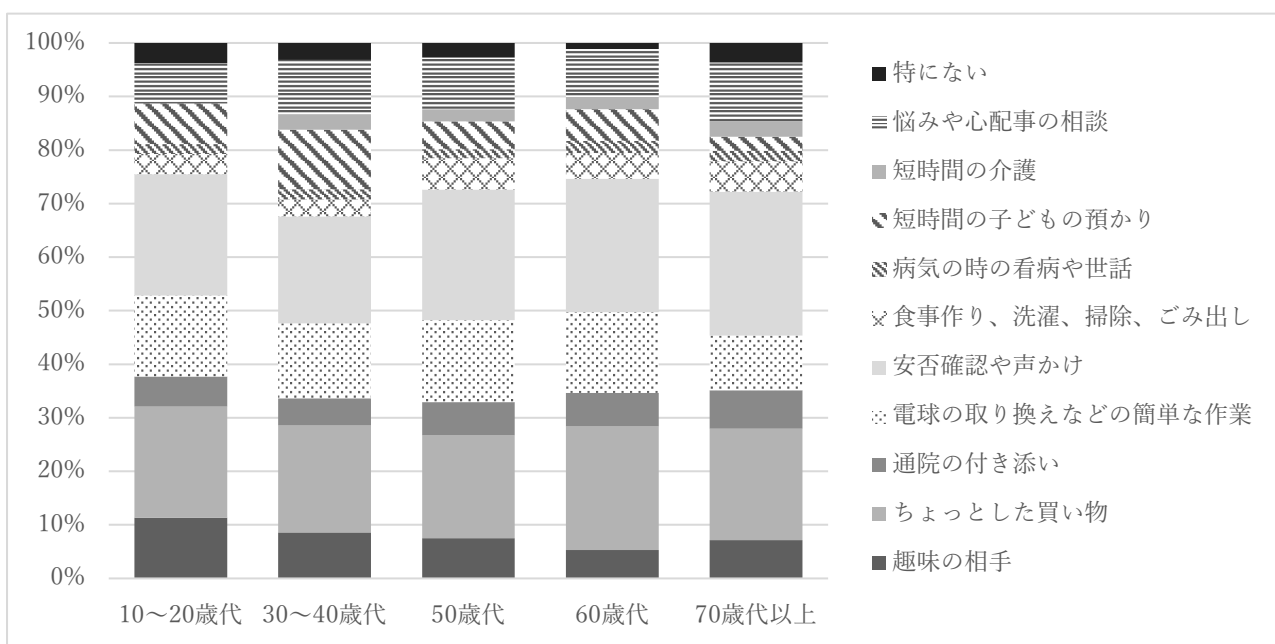
- ・ おしゃべり(川東学区 60代女性)
- ・ 話し相手(岡崎学区 80代女性)

< その他 >

- ・ 独居の高齢者入院にペットの世話をした(岡崎学区 70代男性)
- ・ 外の掃除をしてます(吉田学区 80代女性)
- ・ 少しの時間お茶など入れて気持ちをやすらげてあげたい(吉田学区 70代女性)
- ・ 頼まれたらすぐに手を打つ(老人宅に配食をしているので)(葵学区 80代女性)

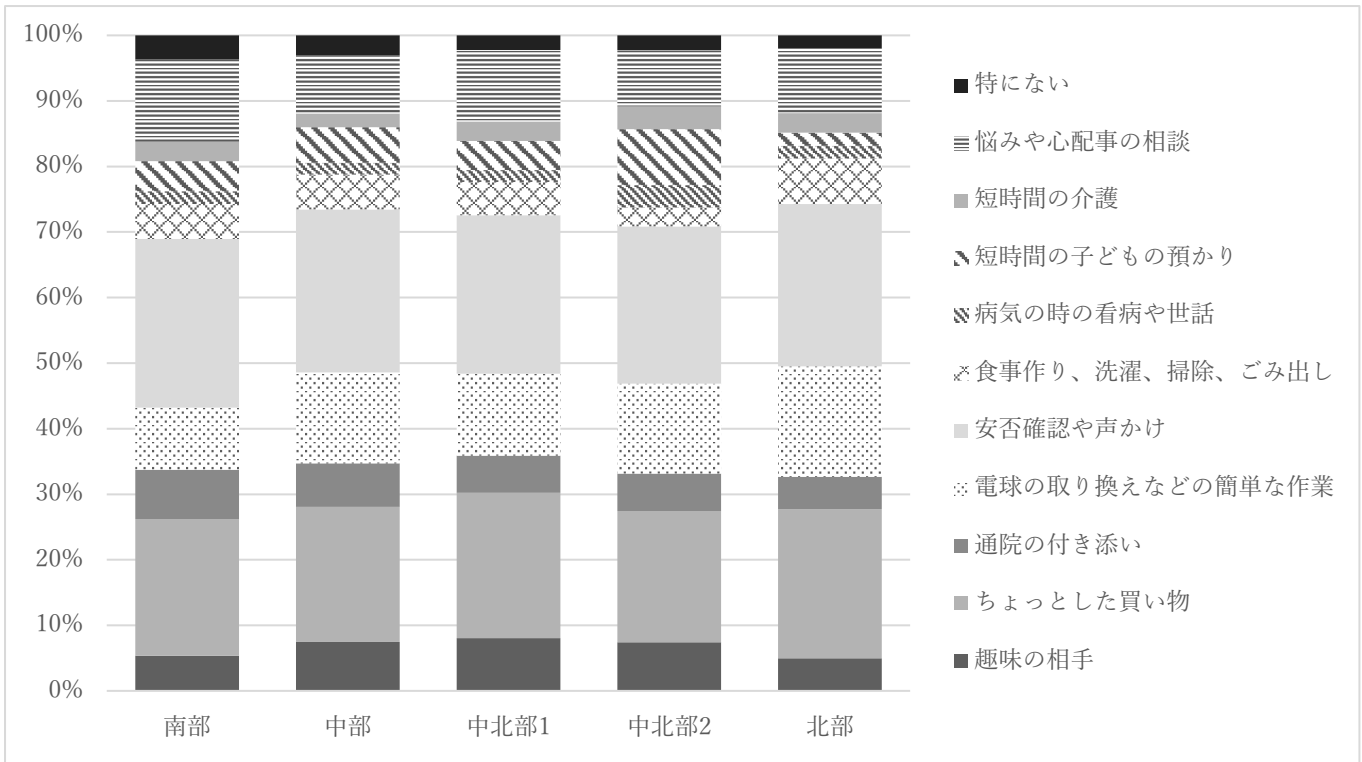
クロス集計⑭-1 年代別困っている方にできそうなこと

	10～20 歳代	30～40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代以上
趣味の相手	6	27	23	28	68
ちょっとした買い物	11	63	59	121	199
通院の付き添い	3	16	19	33	68
電球の取り換えなどの簡単な作業	8	44	47	79	98
安否確認や声かけ	12	63	75	131	256
食事作り、洗濯、掃除、ごみ出し	2	10	18	25	54
病気の時の看病や世話	1	6	5	12	19
短時間の子どもの預かり	4	35	16	31	25
短時間の介護	0	9	7	12	28
悩みや心配事の相談	4	32	30	47	104
特にない	2	10	8	6	35



クロス集計⑭-2 居住地域別困っている方にできそうなこと

	南部	中部	中北部 1	中北部 2	北部
趣味の相手	22	69	40	13	5
ちょっとした買い物	86	190	110	35	23
通院の付き添い	31	61	28	10	5
電球の取り換えなどの簡単な作業	39	128	62	24	17
安否確認や声かけ	106	229	120	42	25
食事作り、洗濯、掃除、ごみ出し	22	49	25	5	7
病気の時の看病や世話	8	17	9	6	2
短時間の子どもの預かり	19	50	22	15	2
短時間の介護	12	19	15	6	3
悩みや心配事の相談	52	82	54	15	10
特にない	15	28	11	4	2

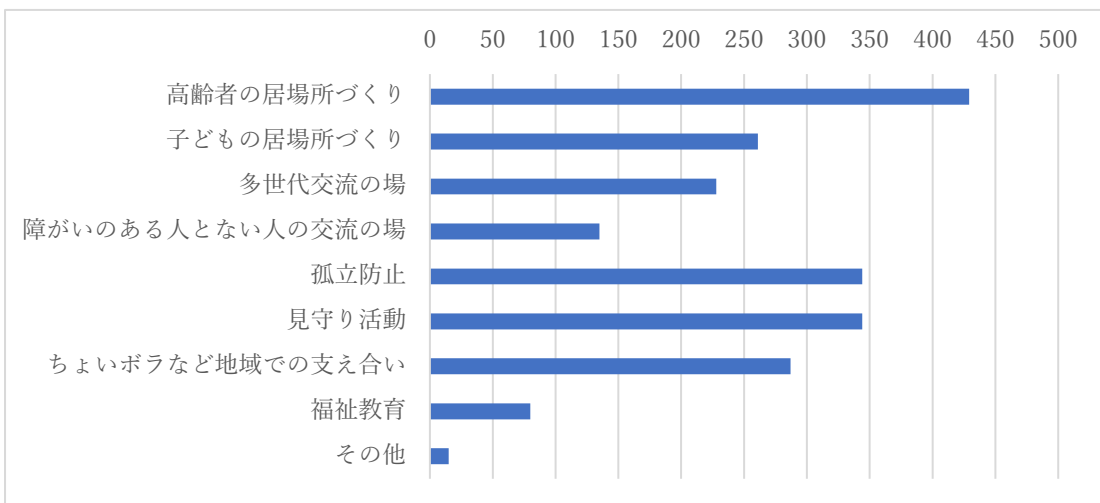


年代、地域による割合の差はほとんどない。
 その年代、地域においても「してほしいこと」「できそうなこと」が同じような割合になっている。

㊸ 地域福祉活動への期待

	高齢者の居場所づくり	子どもの居場所づくり	多世代交流の場	障がいのある人とない人の交流の場	孤立防止
実数	429	261	228	135	344
構成比	53.7%	32.7%	28.5%	16.9%	43.1%
	見守り活動	ちよいボラ等地域での支え合い	福祉教育	その他	
実数	344	287	80	15	
構成比	43.1%	35.9%	10.0%	1.9%	

※構成比は、全回答者 779 名を分母として計算。



居場所づくりなど、孤立防止の取り組みへの期待が大きい。

地域福祉活動への期待（その他）

<子ども>

- ・ 子ども食堂（持ち帰りも OK は）が近くにほしい。（浄楽学区 30 代女性）
- ・ 外からひっこしてきて、せちがらさを感じる。バスも座りにくい。子どもをあまり大切にしない国と思った。（北白川学区 30 代女性）
- ・ 高齢者よりも、子どもの見守りや支え合い、交流が大切だと思う（左京区以外 60 代女性）

<障がい>

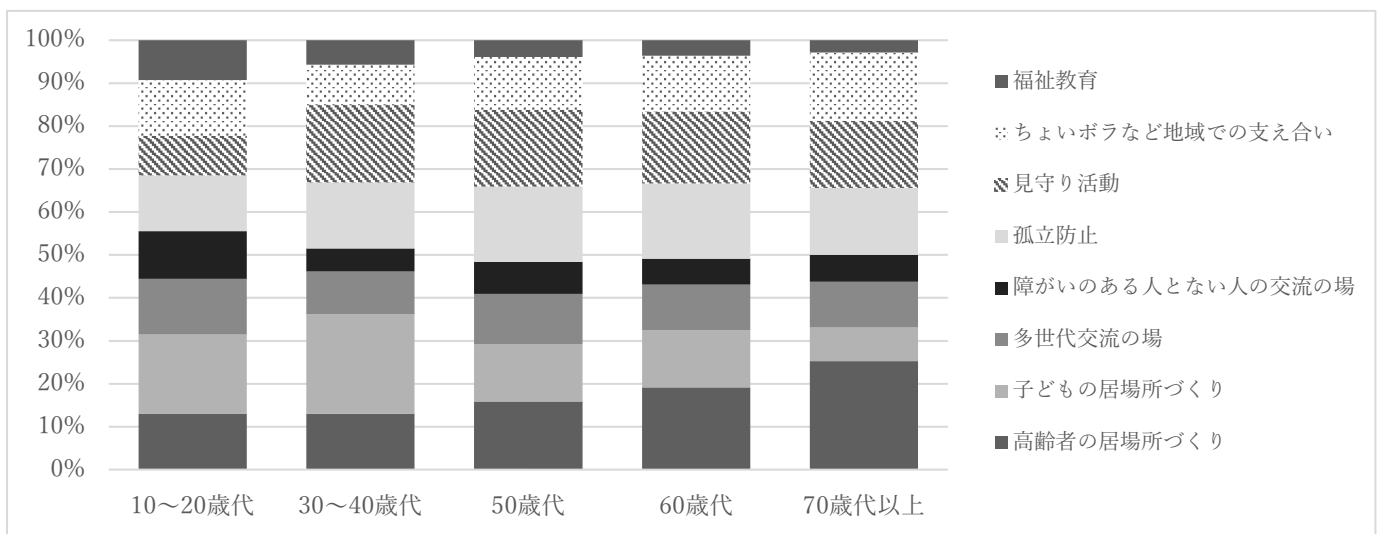
- ・ 聴覚障害は見えない障害とも言われ、なかなか気づきにくいのでコミュニケーションの壁がまだまだ厚く感じる。少しでも薄くなればと思う。（岩倉南学区 30 代女性）

<その他>

- ・ 花を植えるなど、楽しいこと（下鴨学区 70 代女性）
- ・ 近接の職場、軽作業（上高野学区 40 代男性）
- ・ 地域間の相互理解（八瀬学区 30 代男性）
- ・ 福祉マップなどの情報共有（市原野学区 60 代女性）

クロス集計②-1 年代別地域活動への期待

	10～20 歳代	30～40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代 以上
高齢者の居場所づくり	7	39	49	96	236
子どもの居場所づくり	10	69	41	67	73
多世代交流の場	7	30	36	53	100
障がいのある人とない人の交流の場	6	16	23	30	58
孤立防止	7	46	54	88	146
見守り活動	5	54	55	84	146
ちょいボラなど地域での支え合い	7	28	38	65	148
福祉教育	5	17	12	18	27



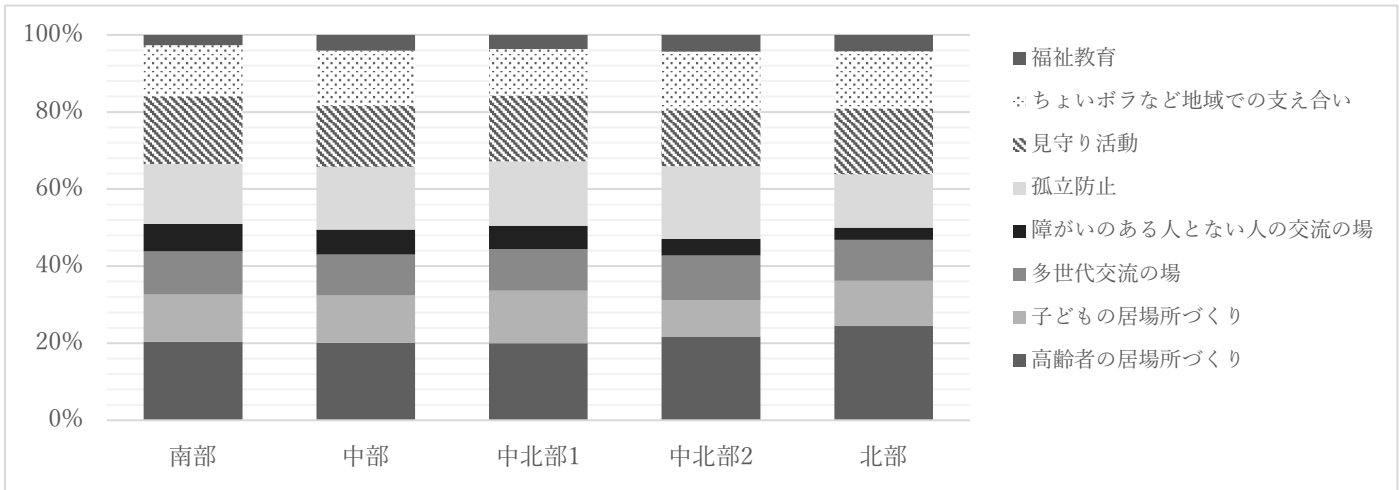
10～20 歳代は、「子どもの居場所づくり」や「障害のある人とない人の交流」

30～40 歳代は、「子どもの居場所づくり」

70 歳代以上は、「高齢者の居場所づくり」に期待している割合が他の年代と比較して多くなっている。

クロス集計⑳-2 居住地域別地域活動への期待

	南部	中部	中北部1	中北部2	北部
高齢者の居場所づくり	91	176	98	30	23
子どもの居場所づくり	54	108	67	13	11
多世代交流の場	50	93	53	16	10
障がいのある人とない人の交流の場	32	57	30	6	3
孤立防止	69	143	82	26	13
見守り活動	78	139	84	20	16
ちょいボラなど地域での支え合い	59	125	59	21	14
福祉教育	12	36	18	6	4

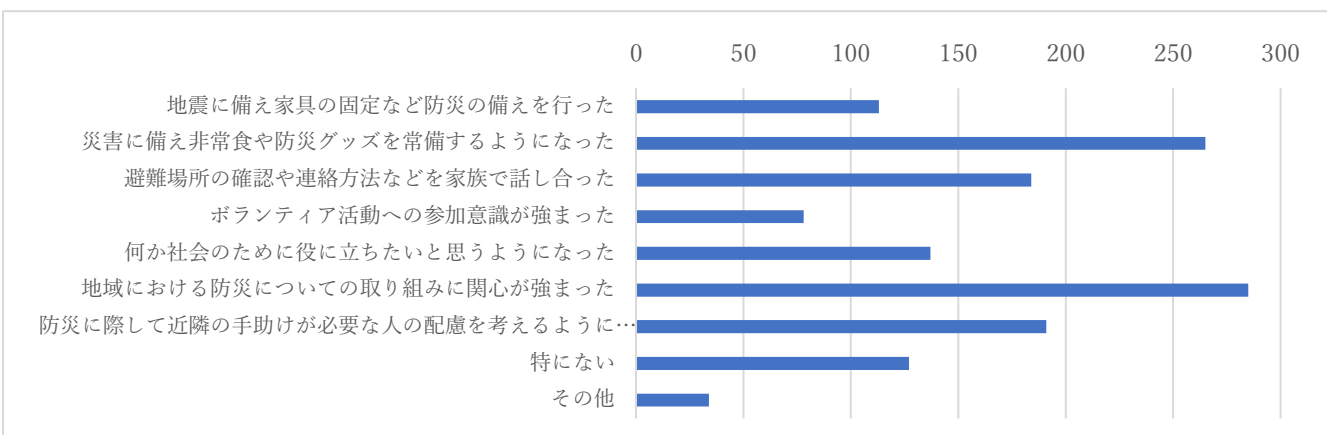


地域福祉活動に期待することの割合に、地域差がない。

㉔ 能登半島地震後の意識の変化

	地震に備え家具の固定など防災の備えを行った	災害に備え非常食や防災グッズを常備するようになった	避難場所の確認や連絡方法などを家族で話し合った	ボランティア活動への参加意識が強まった	何か社会のために役に立ちたいと思うようになった
実数	113	265	184	78	137
構成比	14.1%	33.2%	23.0%	9.8%	17.1%
	地域における防災についての取り組みに関心が強まった	防災に際して近隣の手助けが必要な人の配慮を考えるようになった	特にない	その他	
実数	285	191	127	34	
構成比	35.7%	23.9%	15.9%	4.3%	

※構成比は、全回答者 779 名を分母として計算。



<近所づきあい>

- ・ 近所つきあいの大切さを思う(下鴨学区 70代女性)
- ・ 今年は町内の体振委員になったので防災の事を(勉強)教えて欲しいので防災の集まりには参加する(葵学区 80代女性)
- ・ 近所の人々の安否確認(松ヶ崎学区 80代女性)
- ・ 町内会を脱退する方、元より加入されない方が町内にも多数おられますが、実際に災害が発生した時に助け合える関係性を築くためには、日ごろから町内会活動等でのつながりづくりが必要だろうと考えています。町内会費の経済的負担が理由の方については、公的なサポートがあればいいと思います。(八瀬学区 40代女性)
- ・ 自主防災活動に参加している(岩倉南学区 70代男性)
- ・ 隣近所の良きつながり交流(不明学区 70代女性)

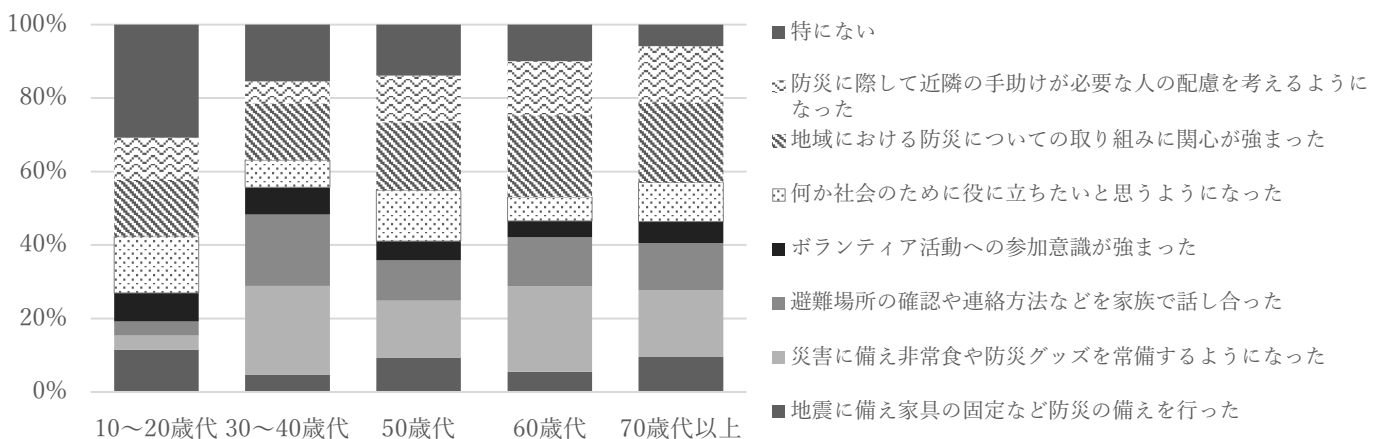
<その他>

- ・ 第2福祉避難所の存在を知らない人が多いことが分かったので今後広めたい。(岩倉南学区 30代女性)
- ・ 地震保険を確認した。(吉田学区 60代女性)
- ・ 不用品の処分(下鴨学区 60代女性)
- ・ 国と行政の施策の遅さと内容のチープさ。(明德学区 60代男性)
- ・ 福祉の仕事しながら親の介護をしており、社会に対して自分に出来る手助けはしたいと思っていますが、日々手一杯の状況でいざという時は支援が必要だと感じています(明德学区 40代男性)

最多が地域防災の取組への関心 20.2%、非常食や防災グッズの備え 18.7%、近隣の要支援者の配慮を考慮ようになった 13.5%となっており、家族の避難や防災から、地域の防災に関心が広がってきている。

クロス集計②⑥ 年代別能登半島地震後の意識の変化

	10～20歳代	30～40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
地震に備え家具の固定など防災の備えを行った	3	7	16	16	70
災害に備え非常食や防災グッズを常備するようになった	1	36	27	68	133
避難場所の確認や連絡方法などを家族で話し合った	1	29	19	39	95
ボランティア活動への参加意識が強まった	2	11	9	13	43
何か社会のために役に立ちたいと思うようになった	4	11	24	19	78
地域における防災についての取り組みに関心が強まった	4	23	32	65	160
防災に際して近隣の手助けが必要な人の配慮を考慮するようになった	3	9	22	43	113
特にない	8	23	24	29	43

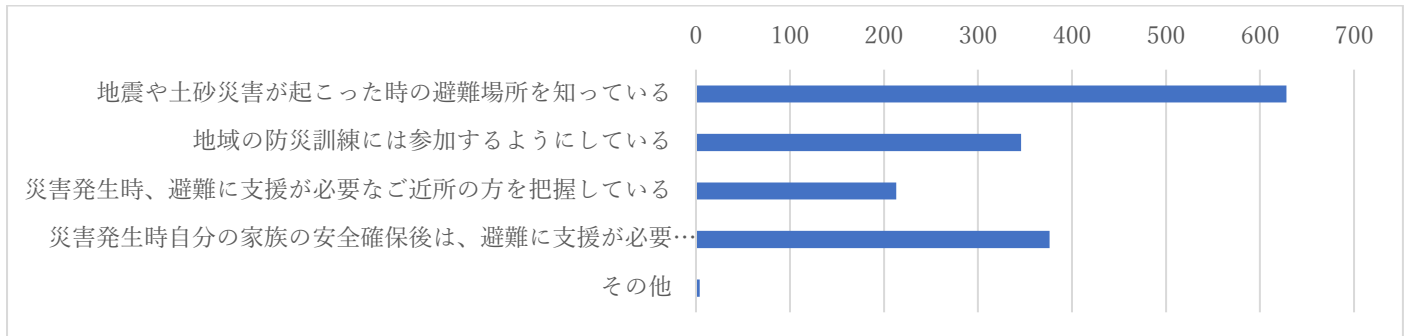


50歳以上の年代になると、地域の防災に関心が広がっている。30～40歳代は、子どもがいる場合、家族が無事に避難できることを優先して考えているのではない。

⑳ 日頃の取組や災害時対応

	地震や土砂災害が 起こった時の避難 場所を知っている	地域の防災訓練に は参加するよう にしている	災害発生時、避難 に支援が必要なご 近所の方を把握し ている	災害発生時自分の家 族の安全確保後は、 避難に支援が必要 な方を手助けしたい	その他
実数	628	346	213	376	4
構成比	78.6%	43.3%	26.7%	47.1%	0.5%

※構成比は、全回答者 779 名を分母として計算。



日頃の取組や災害時対応（その他）

地域で防災訓練をしているのか知らない(修学院学区 50 代女性)

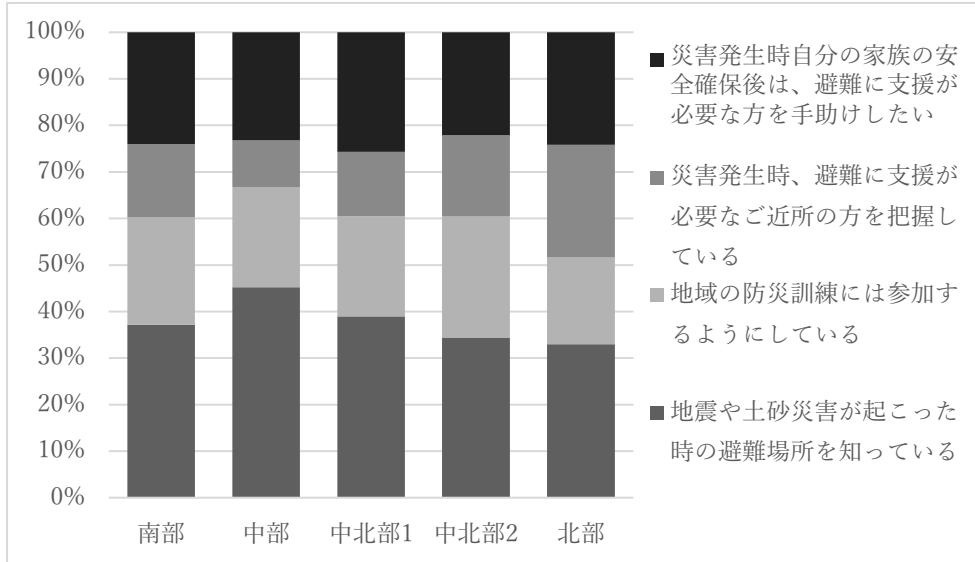
我が身と我が家族を守る、助ける。可能な限り人の手を煩わせない。(明德学区 60 代男性)

親世代はネットを見ないので、紙媒体のハザードマップ・避難場所等の情報が欲しい(明德学区 40 代男性)

聴覚障害者協会左京支部会員を持つ方、ろう高齢者の家を把握している。(岩倉南学区 30 代女性)

クロス集計⑳ 居住地域別日頃の取組や災害時対応

	南部	中部	中北部1	中北部2	北部
地震や土砂災害が起こった時の避難場所を知っている	130	269	132	53	30
地域の防災訓練には参加するようにしている	81	128	73	40	17
災害発生時、避難に支援が必要なご近所の方を把握している	55	60	47	27	22
災害発生時自分の家族の安全確保後は、避難に支援が必要な方を手助けしたい	84	138	87	34	22

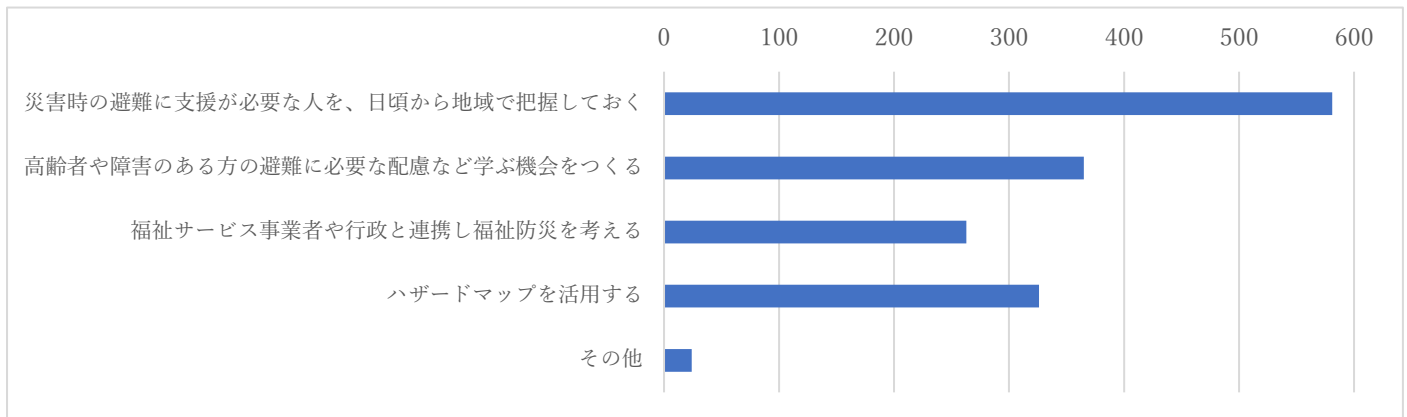


どの年代でも、約 40%が家族だけでなく、近所の方の共助をしたいもしくは、目を向けている。

⑳ 災害時の助け合いに必要なこと

	災害時の避難に支援が必要な人を、日頃から地域で把握しておく	高齢者や障害のある方の避難に必要な配慮など学ぶ機会をつくる	福祉サービス事業者や行政と連携し福祉防災を考える	ハザードマップを活用する	その他
実数	581	365	263	326	24
構成比	72.7%	45.7%	32.9%	40.8%	3.0%

※構成比は、全回答者 779 名を分母として計算。



災害時の助け合いに必要なこと (その他)

<近所づきあい>

- ・ 隣近所の付き合いを大切に(吉田学区 80 代女性)
- ・ 町内会活動を通じて交流を保つことで災害日の避難に役立つと思う(養徳学区 60 代男性)
- ・ ふだんからコミュニケーションを取る(下鴨学区 50 代女性)
- ・ 行政に頼るのではなく、地域主導で出来ることを決めておく。いざとなってから考えるのでは遅い。(下鴨学区 40 代女性)
- ・ 日頃からの近所づきあい(葵学区 80 代女性)
- ・ 地域住民の連携と共助(大原学区 60 代男性)
- ・ 近くの方々と助け合う事(静原学区 80 代男性)

<学び・情報共有>

- ・ 避難所設置時に派遣される市区役所の職員が研修を受け、避難所設営に助言が出来るように、各職員の意識を高める (派遣された職員の意識が低く何もしない避難所運営のじゃまをするだけだった)(岡崎学区 70 代男性)
- ・ 教育、訓練、各個の意識(修二学区 80 代男性)
- ・ 災害時に実施できる (やるべき やらないべき) 助け合い・支え合いについて学ぶ機会をつくる。なにをどこまでやるべきか、逆に一般的に善しとされていそうな行為でも災害時に避けるべき行為。自分の身を守るためには避けるべき行為もあると感じるため(上高野学区 30 代女性)
- ・ 何が出来るか考える(明德学区 70 代男性)

<避難場所>

- ・ 安全で安心できる避難場所(川東学区 60 代女性)
- ・ 子ども多い家庭も、どこに安心してにげてよいか不明。児童館、ようちえんでももっと逃げる場所知らせてほしい(北白川学区 30 代女性)
- ・ 福祉避難所、手話通訳の配置、トラゴン④の設置を考慮してほしい(市原野学区 70 代男性)

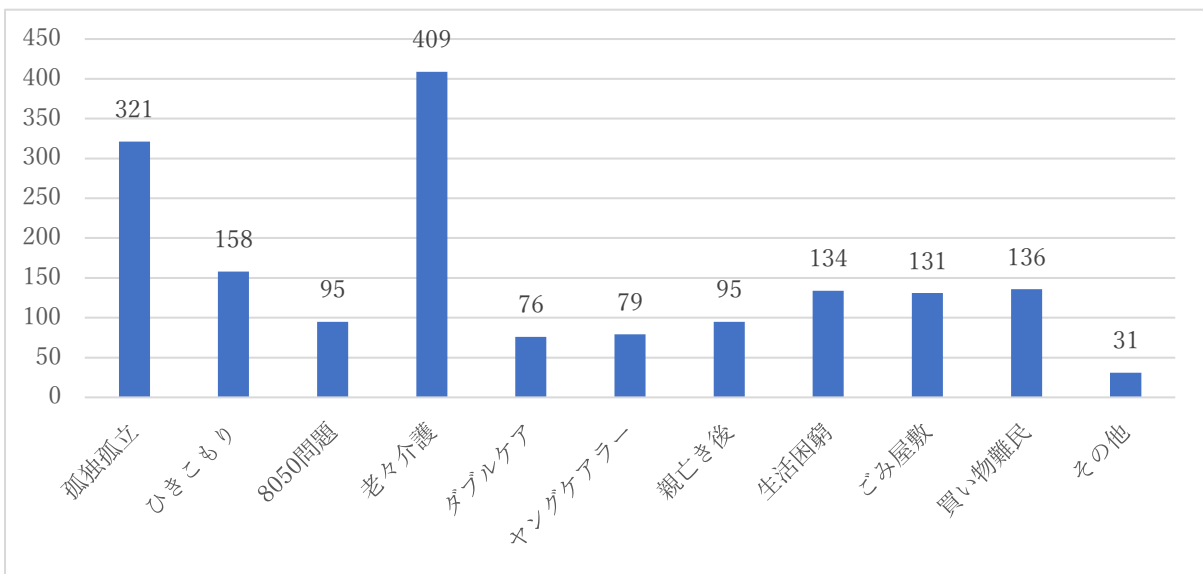
<その他>

- ・ 避難を拒否する人の意思確認（社福、民生、行政）（松ヶ崎学区 60 代男性）
- ・ 福祉防災とはどんな内容ですか？（岩倉北学区 80 代男性）
- ・ 上記②の高齢者避難の配慮よりも、赤ちゃんや幼児が居る子育て世代への配慮に重点をおいて考えるべき！！
（左京区以外 60 代女性）

要支援者を意識した助け合い支え合いの必要性の認識が進んでいる

⑳ 身近な地域福祉課題

	孤独孤立	ひきこもり	8050 問題	老々介護	ダブルケア	ヤングケアラー
実数	321	158	95	409	76	79
構成比	19.3%	19.8%	11.9%	51.2%	9.5%	9.9%
	親亡き後	生活困窮	ごみ屋敷	買い物難民	その他	
実数	95	134	131	136	31	
構成比	11.9%	16.8%	16.4%	17.0%	3.9%	



身近な地域福祉課題（その他）

<高齢者>

- ・ 孤独死(岡崎学区 70 代女性)
- ・ 孤独死(岡崎学区 70 代女性)
- ・ 孤独死(岡崎学区 50 代回答しない)
- ・ 独居老人(葵学区 60 代女性)
- ・ 高齢者の居場所づくり and 市役所の方々の支援を大いにしてほしい。サークル活動ではありませんが、横のつながり etc あれば嬉しいです。(明德学区 70 代女性)

<障害者>

- ・ 障害者に対するケアが少ない(市原野学区 70 代女性)
- ・ 聴覚障害者への情報保障、聞こえない事により、音声情報が得られない問題(左京区以外 60 代女性)

<空き家・空き地>

- ・ 空き家(養正学区 50 代女性)
- ・ 近くにゴミがたまっている家が火災の時心配しています(下鴨学区 70 代女性)
- ・ 空き家(八瀬学区 40 代女性)
- ・ 放地林(岩倉南学区 30 代女性)

<介護者への支援>

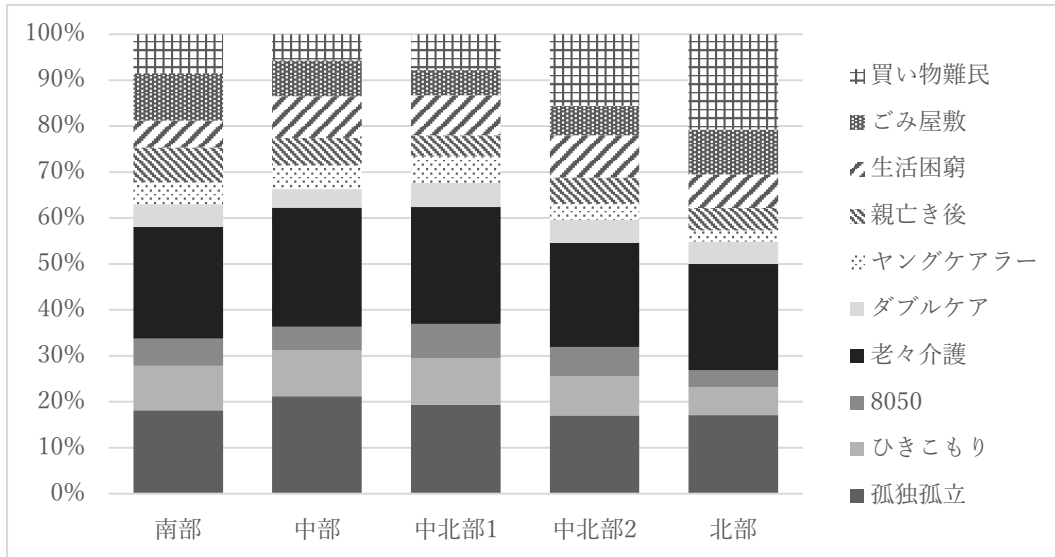
- ・ 介護者の心のケア (コロナ禍の影響で父親が社会から孤立しており鬱症状が出ていますが、精神科には頑なに行かず、介護以外の家族関係にも疲弊しています(明德学区 40 代男性)
- ・ ビジネスケアラー、認認介護(市原野学区 60 代女性)

<その他>

- ・ 後継者となるべき担い手がない ①専業主婦が居ない→共働きでなければ生活できない ②定年退職後を仕事する→年金だけでは生活が出来ない(岡崎学区 70 代男性)
- ・ 終活について (子供がいない為) (修学院学区 50 代女性)
- ・ 入院制度 3 ヶ月では(修二学区 80 代男性)
- ・ 他人に対する無用心(岩倉北学区 80 代男性)
- ・ 道路の問題(明德学区 70 代男性)
- ・ 社会的養護(明德学区 50 代男性)
- ・ 免許証返納と公共交通機関の便数減少(花背学区 60 代女性)
- ・ 買い物に行き帰り、バスが観光時混む(八瀬学区 60 代女性)

⑨-1 居住地域別身近な地域福祉課題

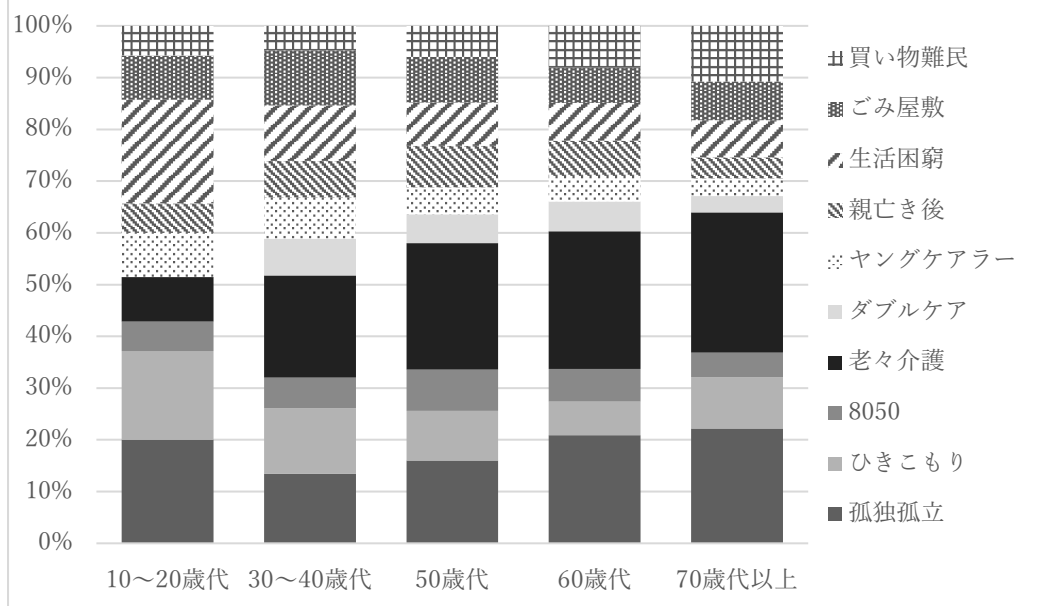
	孤独 孤立	ひきこ もり	8050 問題	老々 介護	ダブル ケア	ヤング ケアラ ー	親亡き 後	生活 困窮	ゴミ 屋敷	買い物 難民
南部	62	33	20	83	17	16	26	20	35	29
中部	145	68	35	177	28	35	41	62	53	39
中北部1	67	35	26	88	18	20	16	30	19	27
中北部2	24	12	9	32	7	5	8	13	9	22
北部	14	5	3	19	4	2	4	6	8	17



北部、中北部2のみ、
買い物難民の割合が高
くなっている。
基本的には、地域差は
ない。

㊹-2 年代別身近な地域福祉課題

	孤独 孤立	ひきこ もり	8050 問題	老々 介護	ダブル ケア	ヤング ケアラ ー	親亡き 後	生活 困窮	ごみ 屋敷	買い物 難民
10～20 歳代	7	6	2	3	0	3	2	7	3	2
30～40 歳代	34	32	15	50	18	20	18	27	27	12
50 歳代	40	24	20	61	14	13	20	21	22	15
60 歳代	80	25	24	102	22	19	26	28	26	31
70 歳代以上	157	70	34	192	22	24	29	51	53	76

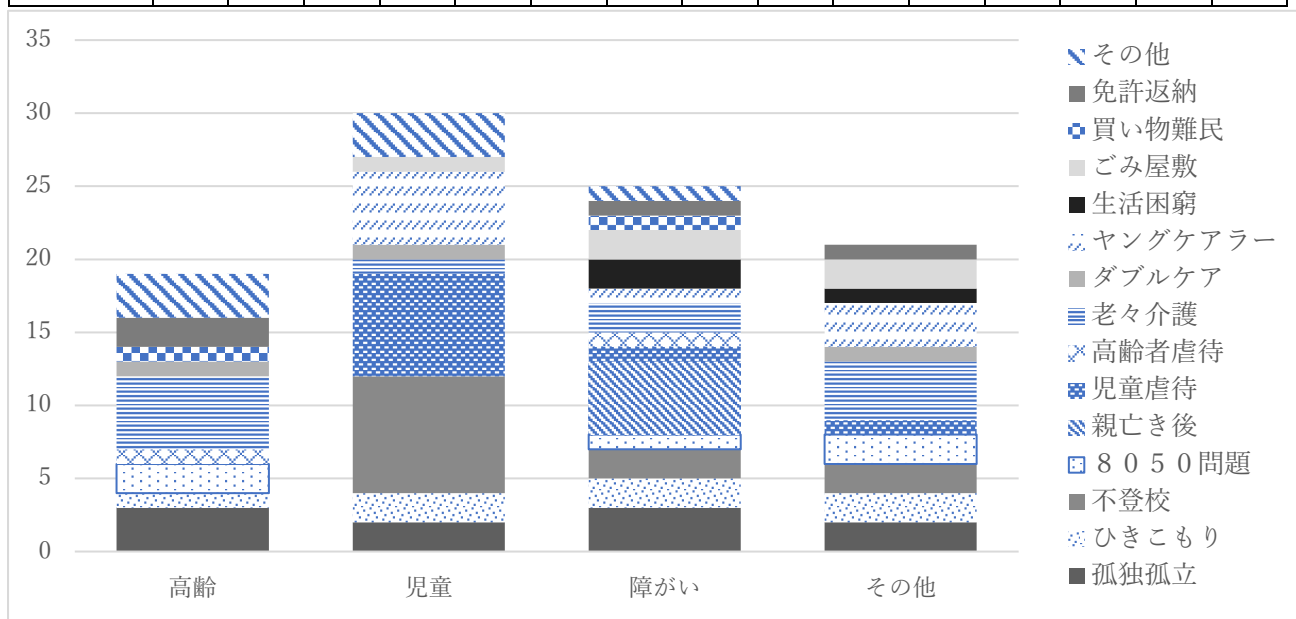


10～20 歳代は、「生活困窮」「ひきこもり」「孤独孤立」に課題を感じている。
 30 歳代以上は、年代が上がるについで、「老々介護」「孤独孤立」を課題と感じている。

会員団体・事業所向けアンケート集計結果（送付数120件、回答数34件、回答率28.3%）

① 事業分野別 地域福祉課題

	孤独孤立	ひきこも	不登校	8050	親亡き後	児童虐待	高齢者虐待	老々介護	ダブルケア	ヤングケア	生活困窮	ゴミ屋敷	買い物難	免許返納	その他
高齢	3	1	0	2	0	0	1	5	1	0	0	0	1	2	3
児童	2	2	8	0	0	7	0	1	1	5	0	1	0	0	3
障がい	3	2	2	1	5	1	1	2	0	1	2	2	1	1	1
その他	2	2	2	2	0	1	0	4	1	3	1	2	0	1	0

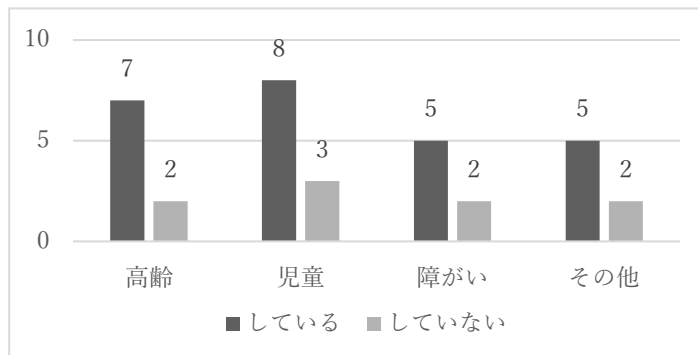


◇その他の地域福祉課題

- ・ 育児困難、虐待につながると思うので、保健センターとつながっていききたい（保育園）
- ・ 学校（保育所）・家庭以外の子どもの居場所、子どもへの良質な文化の継承（児童館）
- ・ 大きな問題に直面はしていないが、幼児、児童に関わることは気になる。（児童館）
- ・ 「バス停や路上に座って休憩できる場所があれば、交通機関を使って買い物など一人で外出できるんですが」と言われていた方が複数おられました。（介護老人保健施設）
- ・ 免許返納、面会者が（夫）など高齢者を見かけることが多くない。車のキズなど気になって声をかけることがある。（介護老人福祉施設）
- ・ 障害分野のデイサービス、ショートステイ、入所場所が少ない。もしくは無い。（生活介護事業所）

② 地域福祉課題への支援の有無

	している	していない
高齢	7	2
児童	8	3
障がい	5	2
その他	5	2



◇支援を行っている場合、支援の概要

分野	選択した地域福祉課題	支援の概要	支援のために必要なこと
高齢	老々介護	各種事業や講座への参加を促し、相談や悩みの傾聴。包括センターへ連絡等。	
高齢	老々介護	地域包括支援センターや役所、介護事業所など必要な支援機関の紹介	
高齢	老々介護	<p>地域の団体より相談があり、会合等に参加したい気持ちはあるが、バスに乗ることが難しく、家族に「皆に迷惑かけるので、参加しないように」と言われ、増々、外に出る機会が減っている方が複数いる。施設の車で送迎の対応はしてもらえませんか、との内容でした。</p> <p>万が一の事故発生時の対応確認や、対象者の住所や姓だけを教えてもらうなど必要以上の情報は受け取らないなど情報取り扱いにも配慮の上、打ち合わせを行い、9月から開始予定です。10月からは別団体からも依頼を受けているので対応予定です。</p> <p>社会福祉法人は元々地域貢献は求められていると思いますが、介護老人保健施設は、一定以上の基本報酬を得るためには、運営母体が社会福祉法人か否かに関わらず「地域貢献活動」を介護保険法上で求められており、各施設模索しているところもあると思われます。</p> <p>施設単体で地域課題の情報収集を行い、アクションを起こしていくことは大変難しく、マネジメント機能を社協様に担って頂くと協力してもらえ施設はあると思いますので、地域包括支援センターの地域ケア会議等も有効活用して頂き、我々を上手に使って頂けると良いかと思ひます。</p>	
高齢	孤独孤立、8050問題、高齢者虐待	個別支援、関係者と連携した見守りなど	
高齢		<ul style="list-style-type: none"> ・免許返納促進広報活動（チラシ配布） 買物の手助 ・チョイボラ活動（庭木の剪定や困り事の手伝い） 	
高齢	老々介護、ダブルケア	入所施設なので面会者の様子を見て包括支援センターを紹介したり、施設相談員ができるだけ話を聞き出すようにしている	

分野	選択した地域福祉課題	支援の概要	支援のために必要なこと
高齢	孤独孤立、ひきこもり	介護予防教室の開催、通いの場の支援など	
児童	ひきこもり、不登校	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりについては、当事者が社会生活を営む上での一歩として、対人関係を改善するため、児童館学童クラブでの子どもとの遊び相手としてのボランティアを受け入れている ・不登校やいろいろな悩みを抱える子どもたちに対しては、安心安全な居場所の提供を行っている 	
児童	不登校、児童虐待	<ul style="list-style-type: none"> ・一時預かり保育・園庭開放を行っている ・個人懇談を行ったり、他の関連施設等と連携を図り、情報共有を行っている 	
児童	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館でするので、午前中は親子乳幼児クラス、放課後は学童クラブを運営 ・地域子育て基幹支援ステーションとして、文化行事の企画 	
児童	不登校、児童虐待、ダブルケア、ヤングケアラー	児童相談所との連携、情報提供	不登校やダブルケア家庭を把握しつつも、支援は出来ていない。支援団体との連携が園とも出来ると情報共有が出来ると思います。
児童	不登校、児童虐待、ヤングケアラー	相談があったときに話をきき、関係機関につなぐ	
児童	児童虐待	子ども家庭、保護者への園ができる限りのケア。関係機関との連携。	
児童	ひきこもり、不登校、児童虐待、ヤングケアラー	<ul style="list-style-type: none"> ・別室やオンラインなどの ICT 活用 ・関係機関との連携 	
児童	不登校、児童虐待、ヤングケアラー	不登校児童の受け入れ、相談	
障がい	老々介護	<ul style="list-style-type: none"> 介護者の話を聴く 介助や福祉用具の紹介等 	
障がい	親亡き後	親亡き後を想定して、福祉サービスの利用を進めている。	

分野	選択した地域福祉課題	支援の概要	支援のために必要なこと
障がい	親亡き後、買い物難民	介護施設等に入所出来るよう連絡調整を行っています。	幸い当事務所の利用者さんはヘルパーさんを利用されている。ただし、要望があれば買い物の代行をしたり、一緒に同行したりしています。
障がい	孤独孤立、親亡き後	障害のある方が、親亡き後、一人暮らしをするケースがあり、サービスをつなげたり、フォローに入ることもある。	
障がい	孤独孤立、ひきこもり、親亡き後、生活困窮、ごみ屋敷	精神障害者の生活？～生活支援全般を行っている。医療機関（特にウエノ診療所）と綿密に連携しながら。	
その他	老々介護、ヤングケアラー、ごみ屋敷	日常診療を通じて、行政のサービスにつなげる	
その他	孤独孤立、ひきこもり、不登校、ヤングケアラー、生活困窮	子ども食堂活動への設備改善支援など	
その他	8050問題、老々介護、ヤングケアラー	更生保護活動、高齢者の居場所づくり、子どもの見守り	
その他	不登校、児童虐待、老々介護、ダブルケア、免許返納	老々介護については、積極的に公的支援の一つとして、情報共有や配薬などで。	ボランティアになってしまいつかれてしまう。

◇支援をしていない場合、支援のために必要なこと

分野	選択した地域福祉課題	支援のために必要なこと
高齢	8050 問題、老々介護	介護サービスを必要としている人の洗い出し（介護認定を受けていない人で）
高齢	孤独孤立、老々介護、買い物難民	京都市内へは自家用車が必須のため、買い物難民向けにコミュニティバスを誘致したり、特に高齢者が多い地域のため、孤独にならないような地域との関わりをもてる場を提供する必要がある。
児童	孤独孤立、不登校、老々介護	支援をするための人手、お金。つながり。 特にどうつながっていくか…地域の社協の会議に出向き、お互いの状況を伝え合い、何ができるか考えていきたい。
児童	孤独孤立、ごみ屋敷	1人世帯の方にはできるだけ声をかけていますが、それ位しかできていません。以前は保育園に来てもらって一人ぼっちをなくす会をしていましたが、今はコロナからできていません。復活させたいけれど、保育園も人手不足で…。日々に精いっぱいです。
児童	不登校、児童虐待、ヤングケアラー	地域における様々な機関との連携
障がい	孤独孤立、ひきこもり、不登校、親亡き後、児童虐待、高齢者虐待、老々介護、ヤングケアラー、生活困窮、ごみ屋敷、免許返納	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の確保 ・行政からの補助、先導や情報提供
障がい	不登校、8050 問題	③、④→直接的な支援はおこなっていないが、従業員の中に子どもが不登校の家庭が多い。その為、親が仕事を休まなくてはならない状況も多々有り、職場として人員体制が厳しい中でも極力休みを承認している。各家庭の話を聞くが、学校や行政の介入が弱いように感じます。不登校や 8050 問題というのが、各家庭の問題ではなく、社会が放置した結果だと思えます。 ⑮→法人として新しい施設の立ち上げをすすめています。
その他	8050 問題、ごみ屋敷	若い人の入会が必要だと思います